熊谷市
小学生の生活に関するアンケート調査
中学生の生活に関するアンケート調査
ヤングケアラーの実態調査
結果報告書



令和６年３月

熊谷市福祉部こども課

目次

１　調査の概要……１

２　小学生の調査結果……２

３　中学生の調査結果……１９

４　ヤングケアラーの実態調査結果

①小学校担任教諭アンケート調査結果……３６

②中学校担任教諭アンケート調査結果……３９



１　調査の概要

（１）調査の目的

潜在化しているヤングケアラーの実態を把握し、ヤングケアラーの支援策を検討すること。

（２）調査対象

・市立小学校（２８校）５、６年生
・市立中学校（１５校）１～３年生
・市立小学校（２８校）１～６年生担任教諭
・市立中学校（１５校）１～３年生担任教諭

（３）調査方法

タブレット端末等により、WEB アンケートを無記名で行った。

（４）調査期間

令和５年１１月２０日～１２月１５日

（５）回答状況

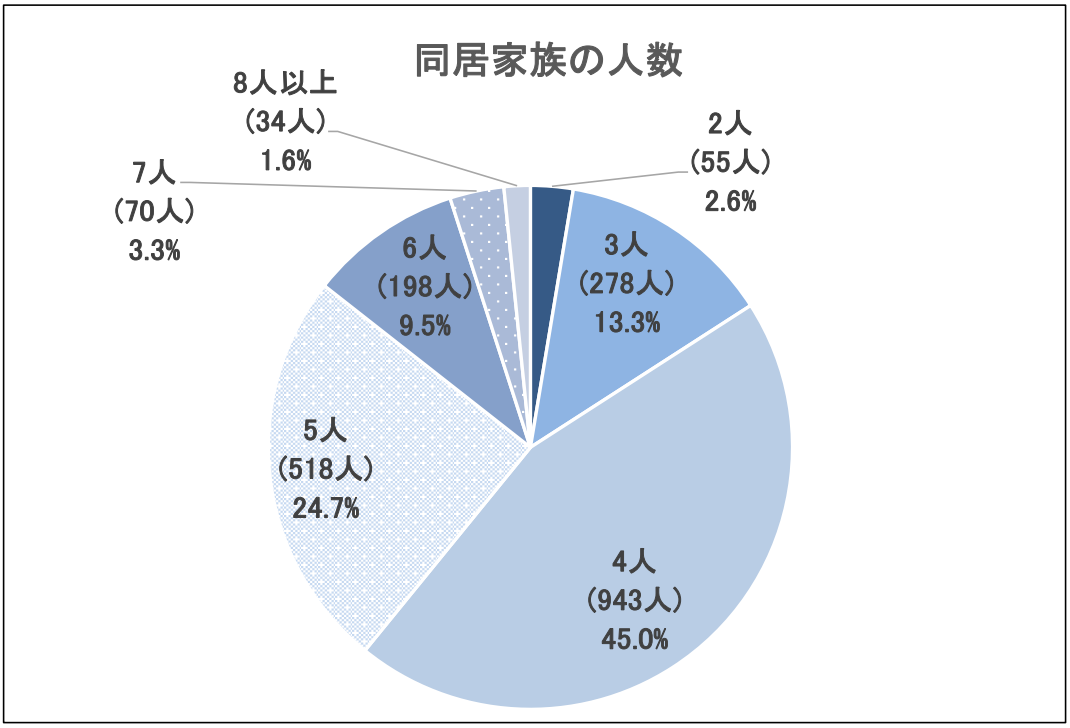
調査対象者	配布数	回答者数	回収率
小学５、６年生	３，０１４人	２，０９６人	６９．５％
中学１～３年生	４，５７３人	３，３９７人	７４．３％
小学１～６年生担任教諭	３２４人	１９３人	５９．６％
中学１～３年生担任教諭	１４３人	７７人	５３．８％

２　小学生の調査結果

（１）家庭の状況

①同居家族の人数（自分を含む）

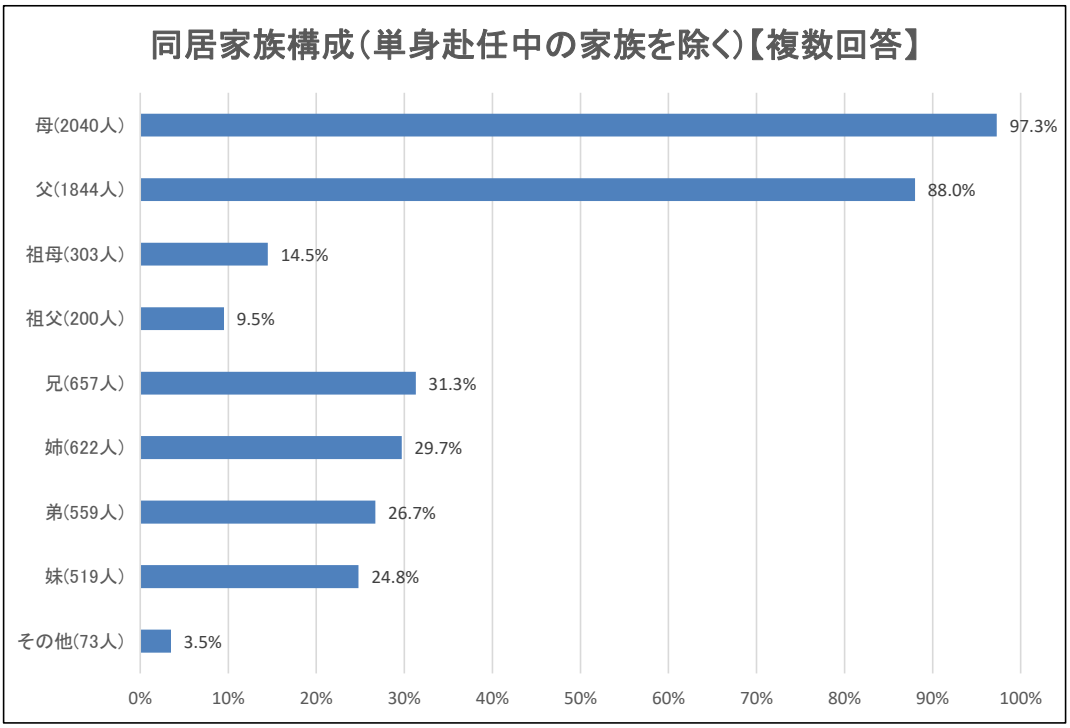
全回答者2,096人のうち、同居家族の人数（自分を含む）は、「4人」が45.0%と最も高く、次いで「5人」24.7%、「3人」13.3%であった。



n=2,096人

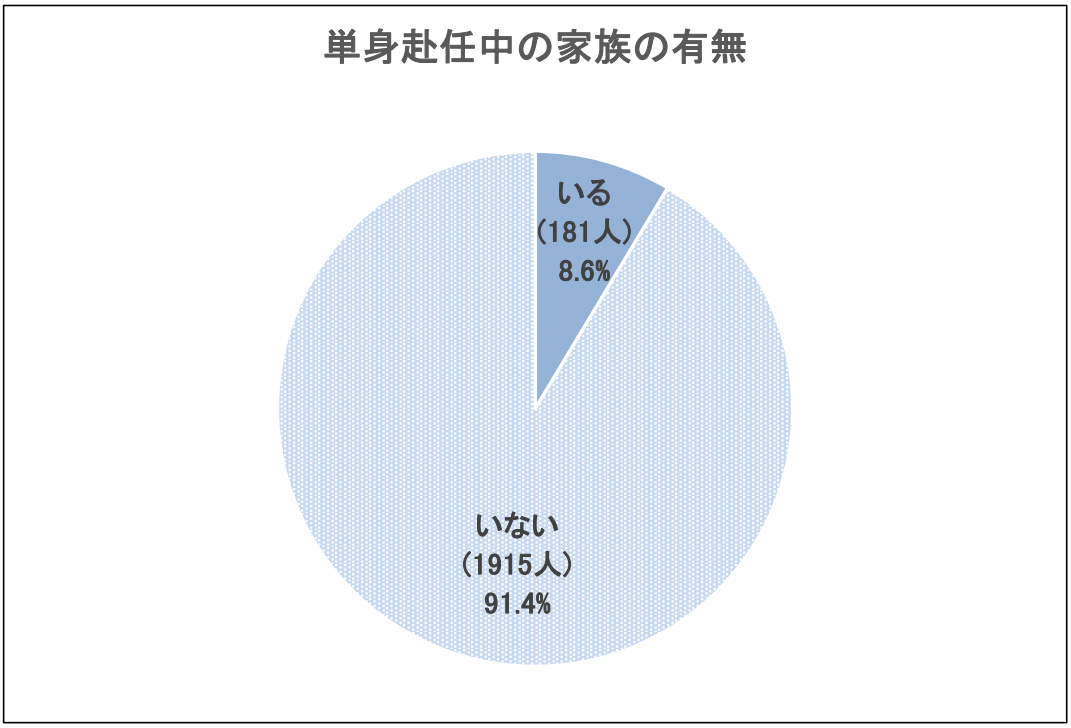
②同居家族構成（単身赴任中の家族を除く）【複数回答】

同居家族構成（単身赴任中の家族を除く）は、「母」が97.3%と最も高く、次いで「父」88.0%、「兄」31.3%であった。



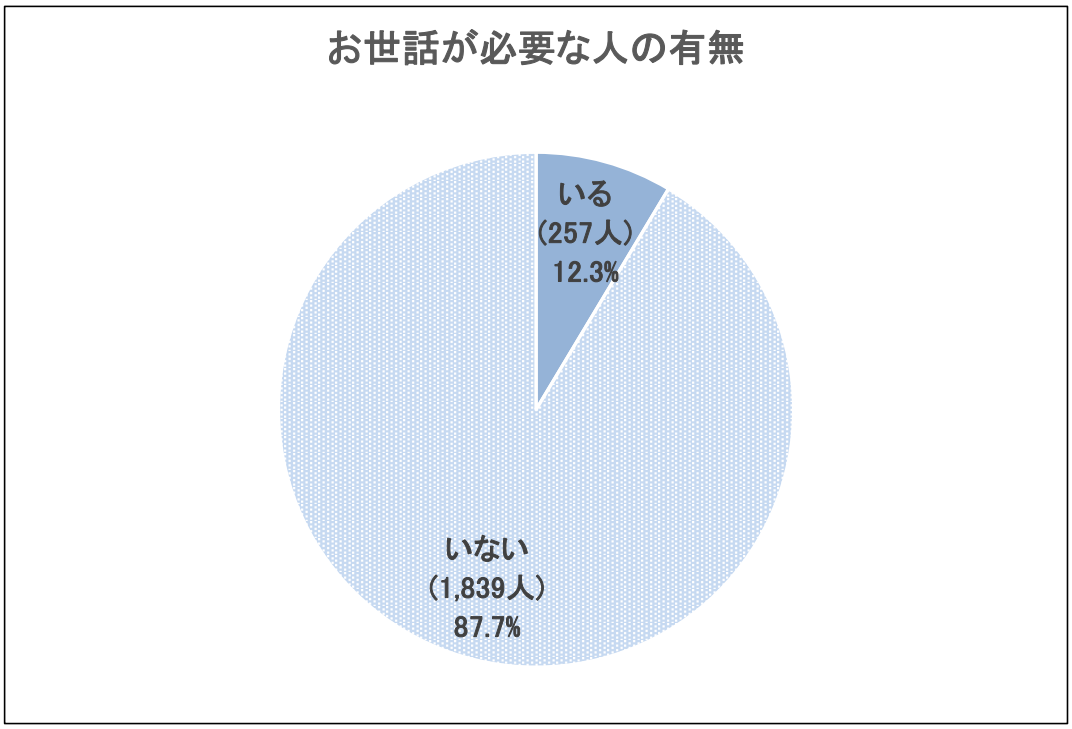
n=2,096人

③単身赴任中の家族の有無
　単身赴任中の家族は、「いる」が8.6%、「いない」が91.4%であった。



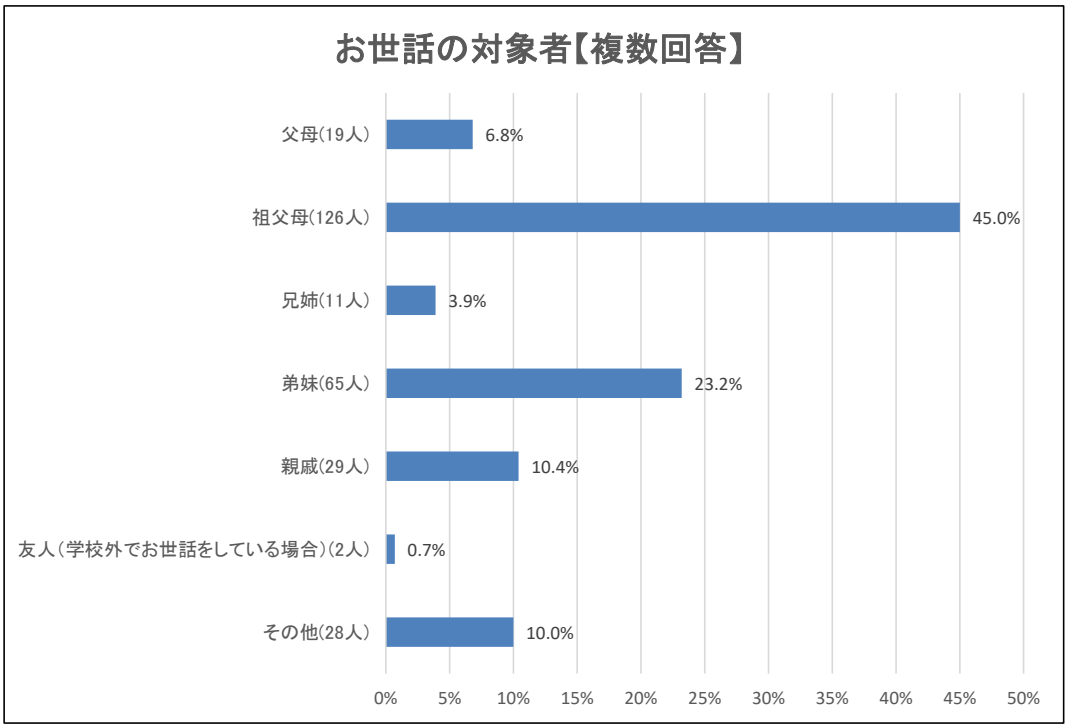
n=2,096人

（２）お世話の状況
①お世話が必要な人の有無
　お世話が必要な人は、「いる」12.3%、「いない」87.7%であった。



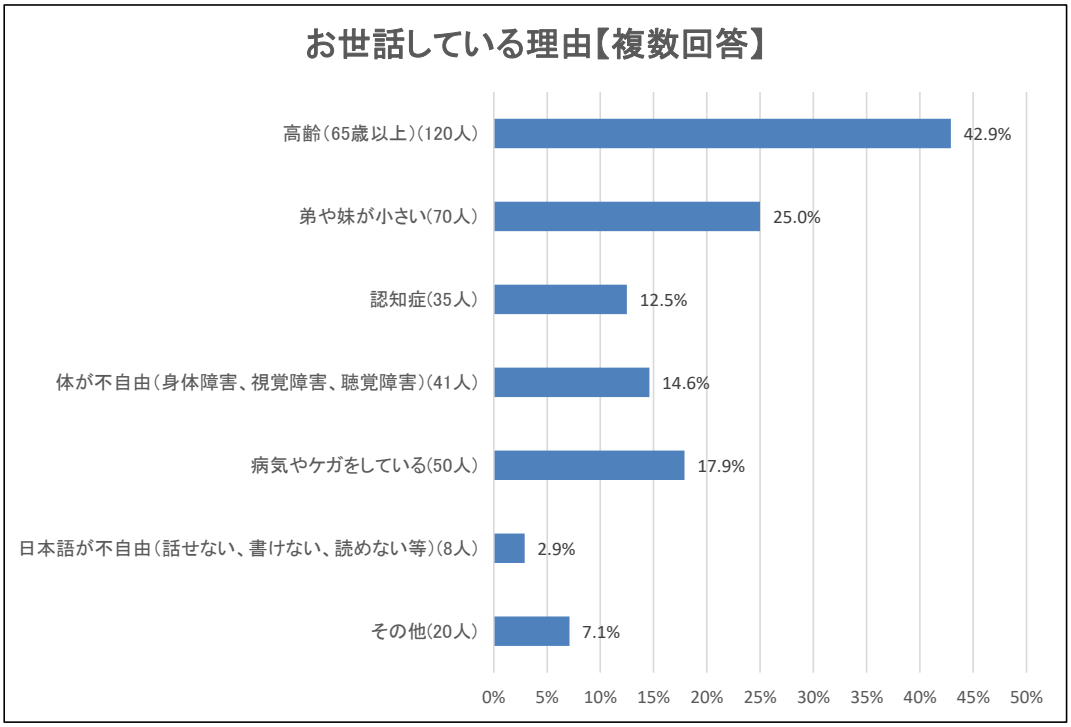
n=2,096人

②お世話の対象者【複数回答】
　お世話の対象者（n＝280人※）のうち、「祖父母」が45.0%と最も高く、次いで「弟妹」23.2%、「親戚」10.4%であった。
※お世話が必要な人の有無において「いる」と回答した257人がお世話している人数



n=280人

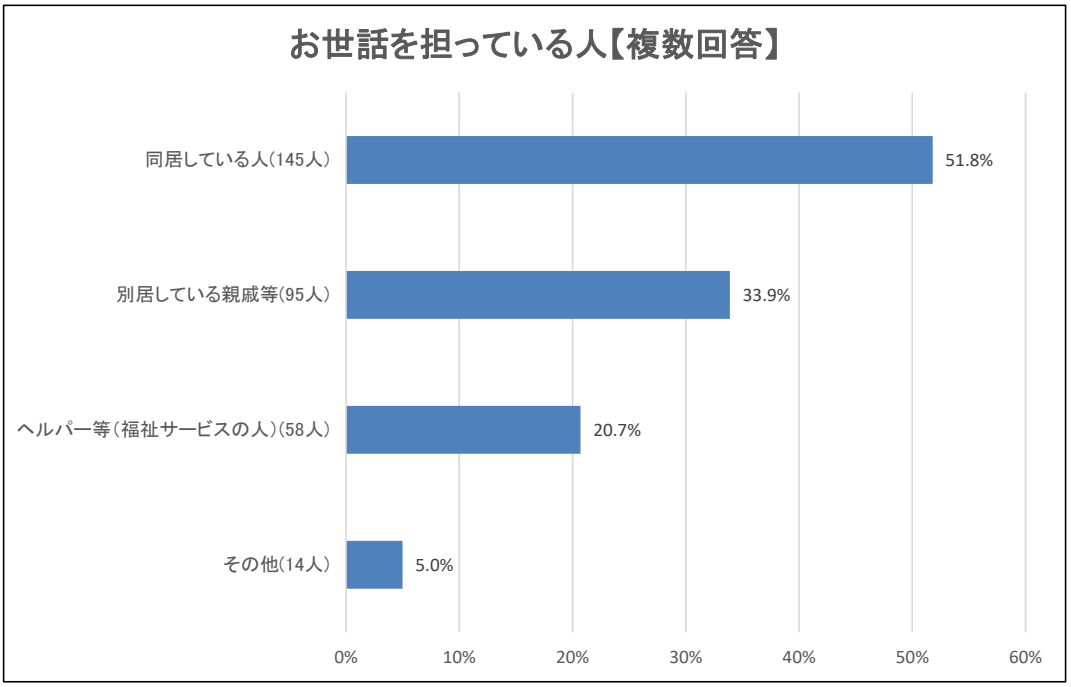
③お世話している理由【複数回答】
　お世話をしている理由は、「高齢（65歳以上）」が42.9%が最も高く、次いで「弟や妹が小さい」25.0%、「病気やけがをしている」が17.9%であった。



n=280人

④お世話を担っている人【複数回答】

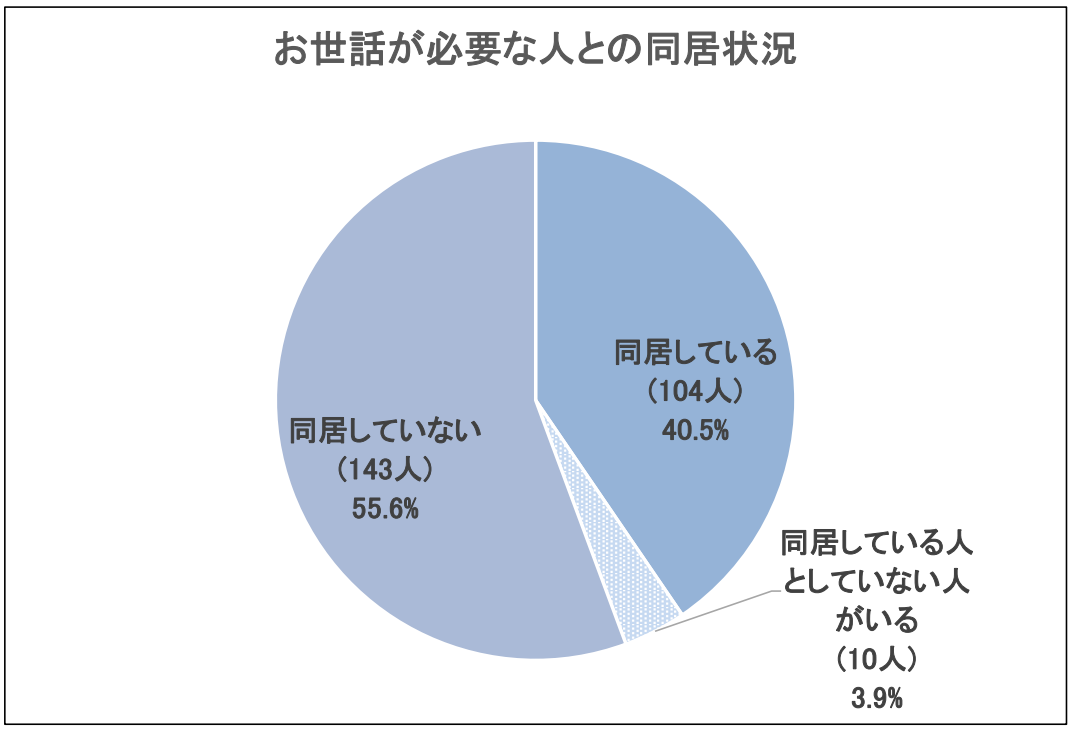
お世話を担っている人は、「同居している人」が51.8%と最も高く、次いで「別居している親戚等」33.9%、「ヘルパー等（福祉サービスの人）」20.7%であった。



n=280人

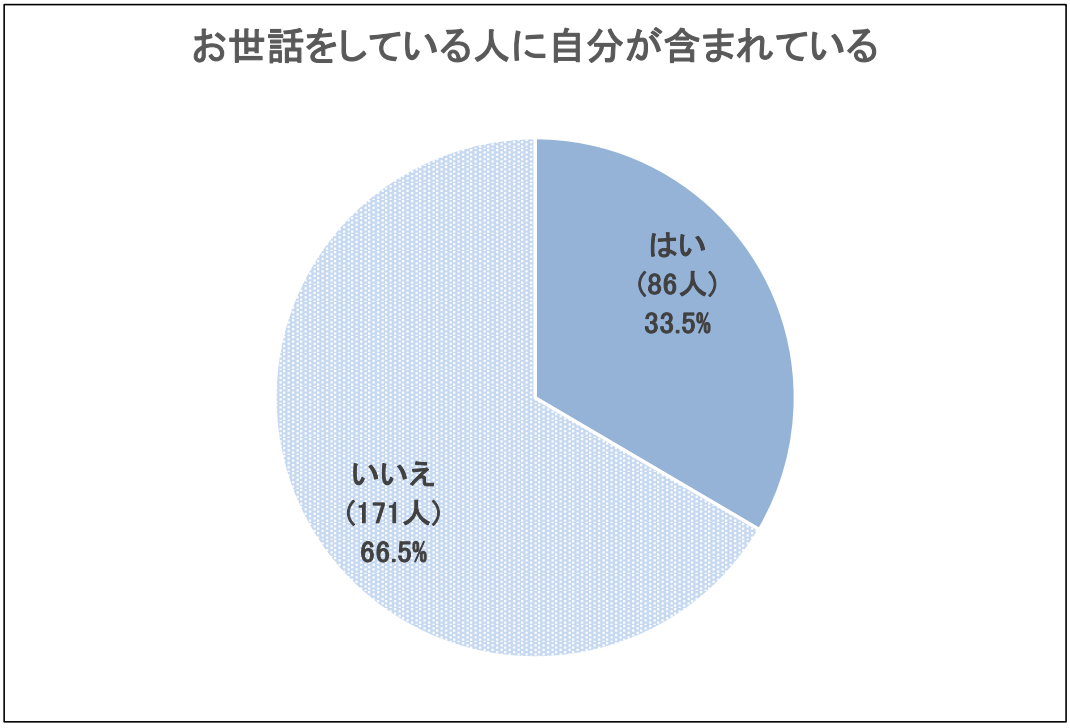
⑤お世話が必要な人との同居状況

お世話が必要な人の有無において「いる」と回答した257人のお世話が必要な人との同居状況は、「同居している」が40.5%、「同居していない」が55.6%、「同居している人としていない人がいる」3.9%であった。



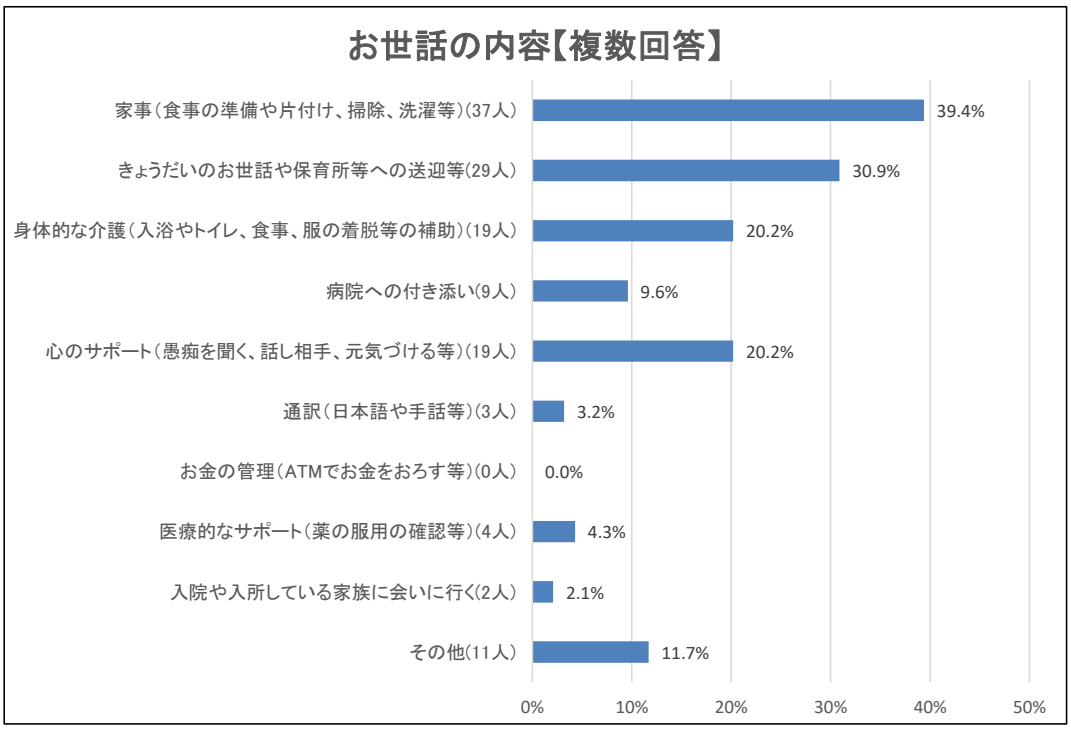
n=257人

⑥お世話をしている人に自分が含まれている
　お世話をしている人に自分が含まれている人は、33.5%であった。



n=257人

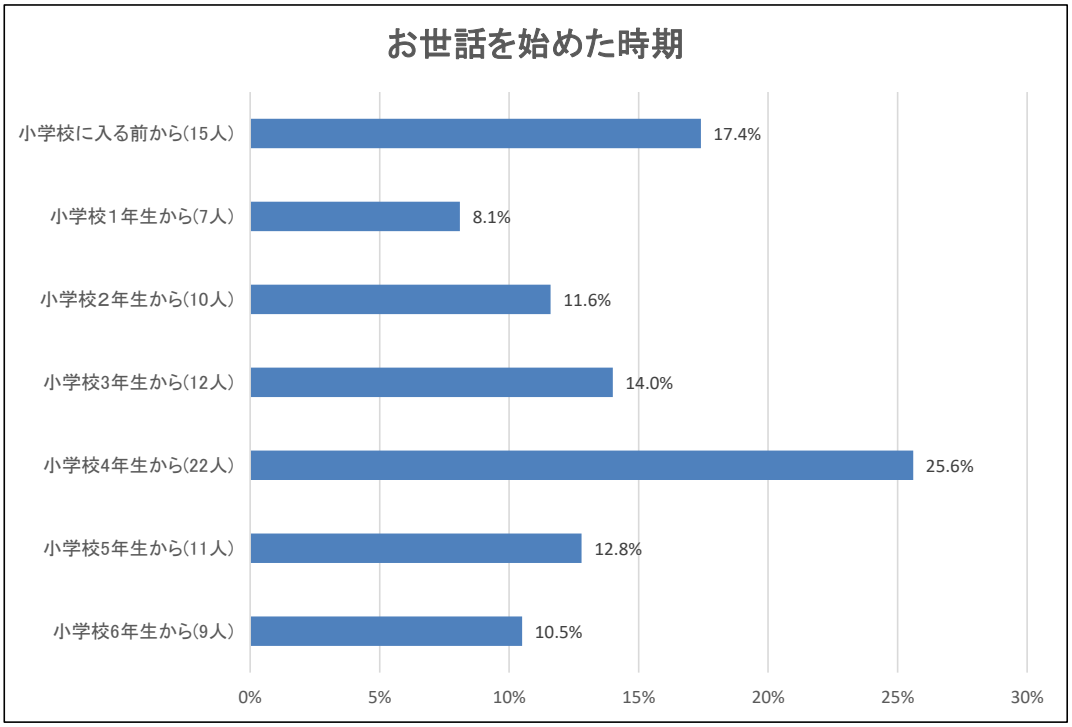
（３）お世話を担っている人の状況
①お世話の内容【複数回答】
　お世話が必要な人（n=94人※）のお世話の内容は、「家事（食事の準備や片付け、掃除、洗濯等）」が39.4%と最も高く、次いで「きょうだいのお世話や保育所等への送迎等」30.9%、「身体的な介護（入浴やトイレ、食事、服の着脱等の補助）」及び「心のサポート（愚痴を聞く、話し相手、元気づける等）」が20.2%であった。
※お世話をしている人に自分が含まれている86人がお世話をしている人数



n=94人

②お世話を始めた時期

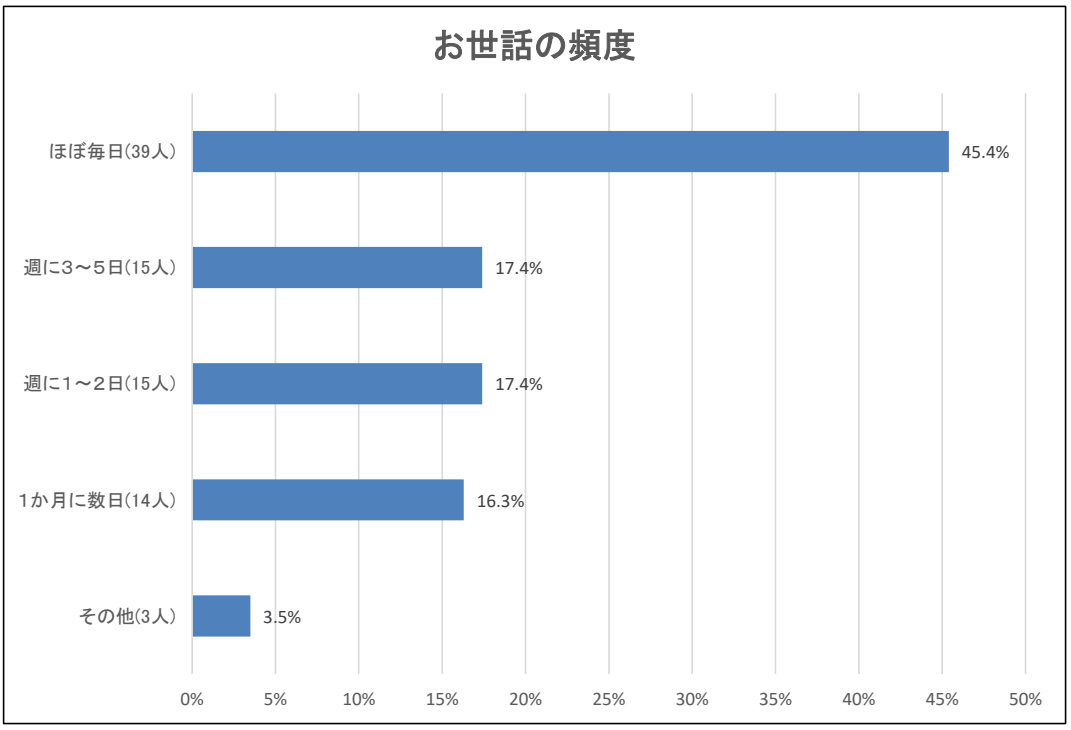
お世話をしている人に自分が含まれている86人のうち、お世話を始めた時期は、「小学校4年生から」が25.6%と最も高く、次いで「小学校に入る前から」17.4%、「小学校3年生から」14.0%であった。



n=86人

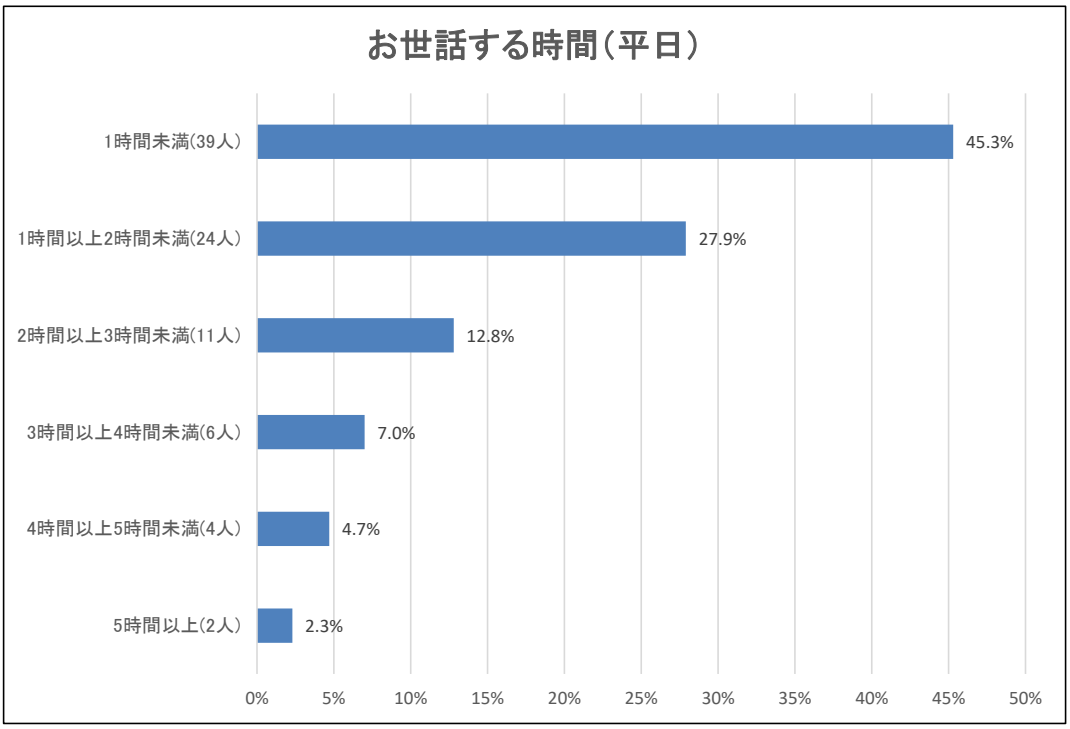
③お世話の頻度

お世話の頻度は、「ほぼ毎日」が45.4%と最も高く、次いで「週３～５日」及び「週１～２日」が17.4%であった。



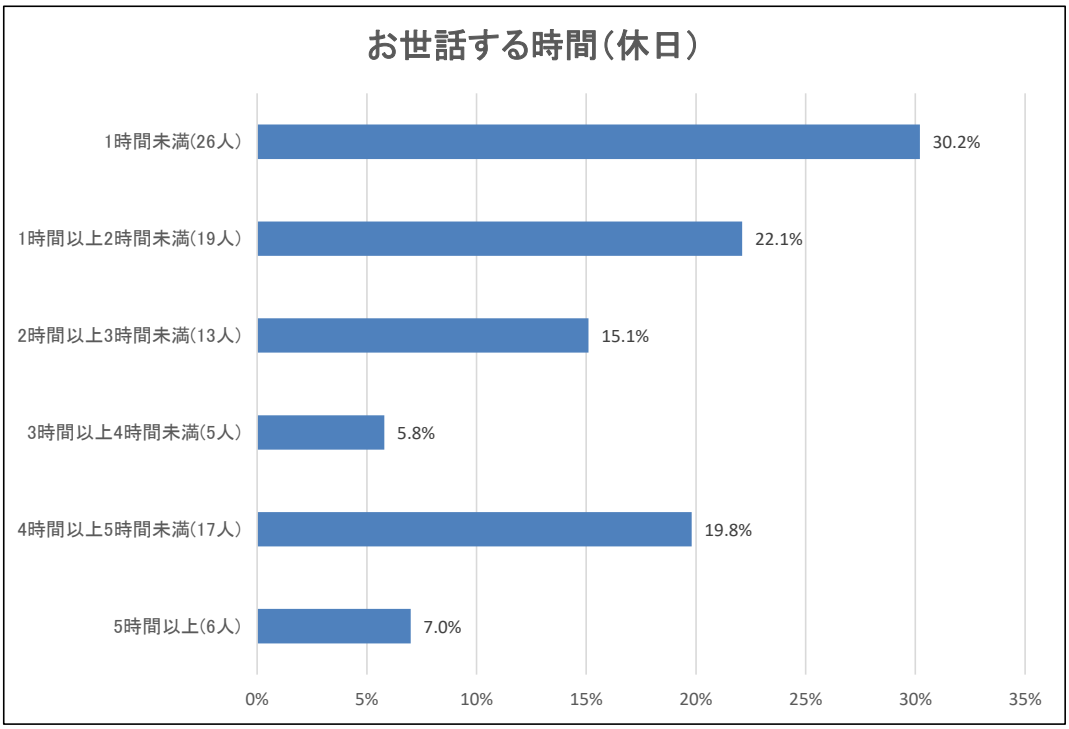
n=86人

④お世話する時間（平日）
　平日のお世話に費やす時間は、「１時間未満」が45.3%と最も高く、次いで「１時間以上２時間未満」27.9%、「２時間以上３時間未満」12.8%であった。



n=86人

⑤お世話する時間（休日）
　休日のお世話に費やす時間は、「１時間未満」が30.2%と最も高く、次いで「１時間以上２時間未満」22.1%、「４時間以上５時間未満」19.8%であった。

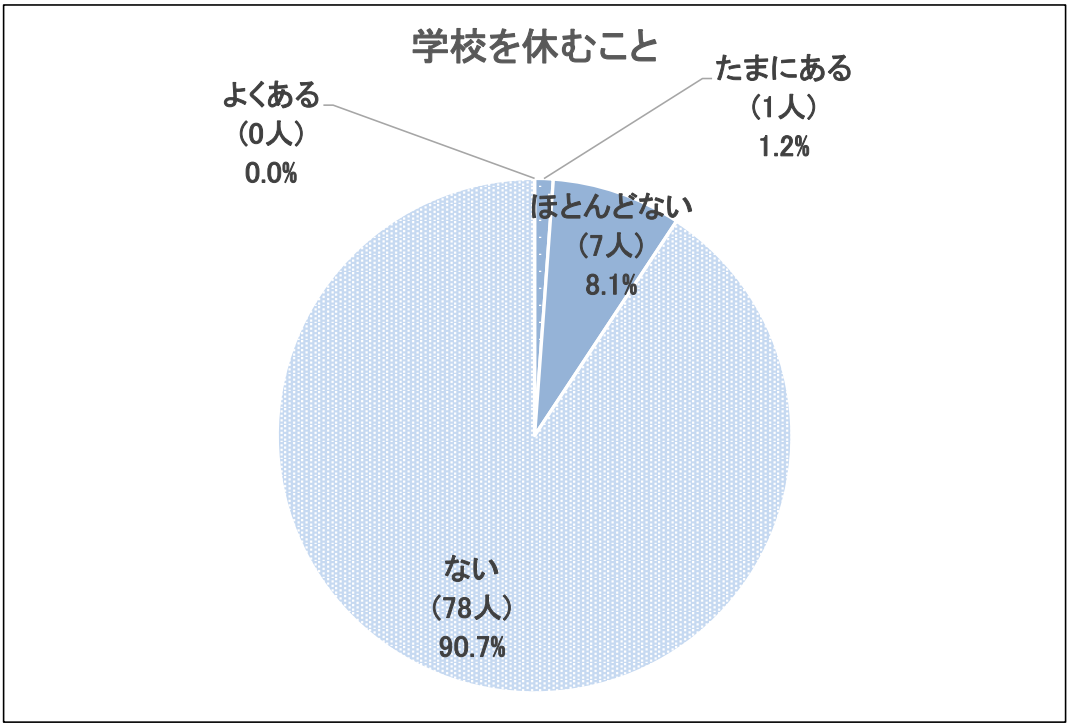


n=86人

（４）お世話による影響

①学校を休むこと

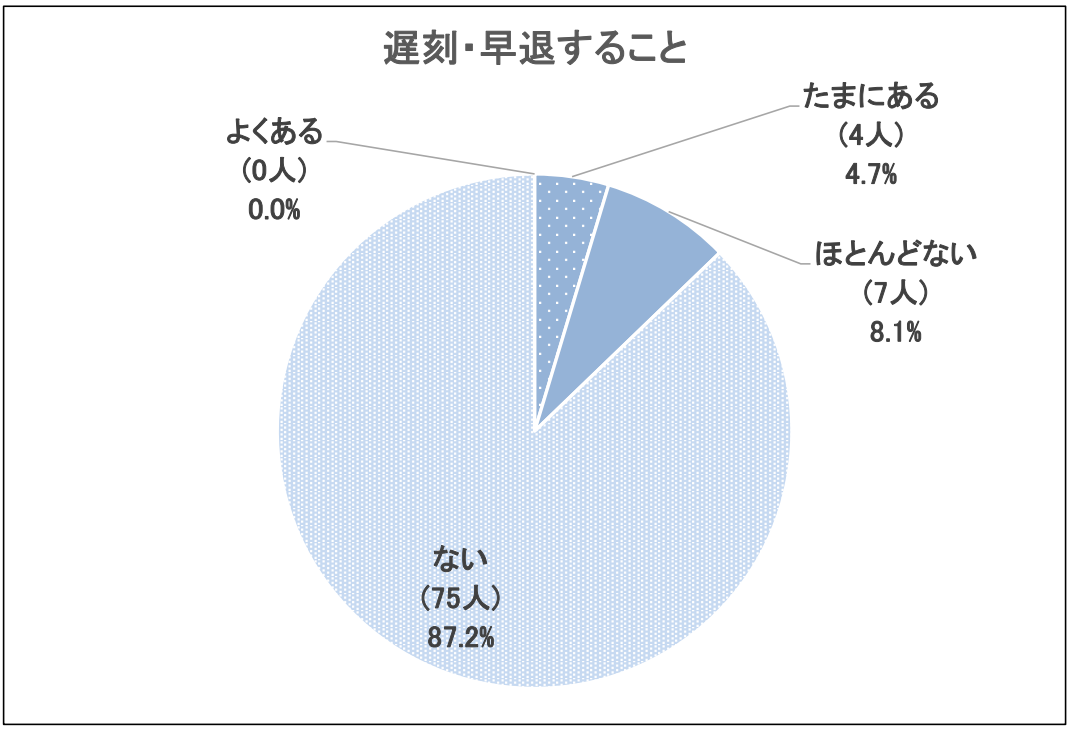
学校を休むことは、「ない」が90.7%と最も高く、次いで「ほとんどない」8.1%、「たまにある」1.2%、「よくある」0.0%であった。



n=86人

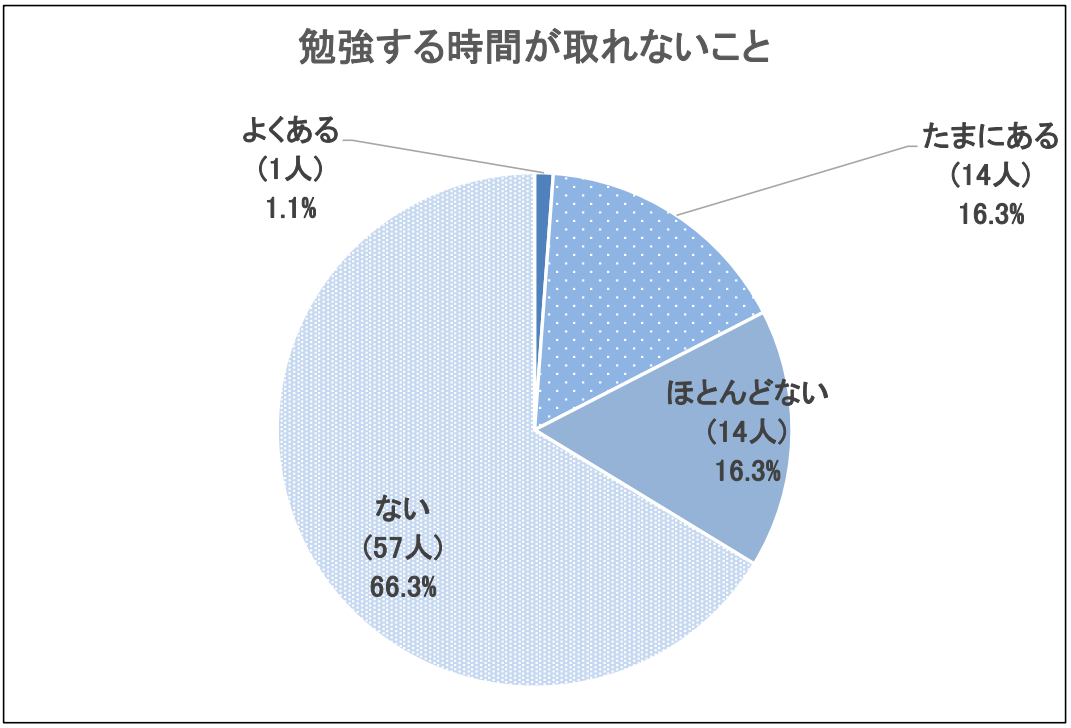
②遅刻・早退すること

遅刻・早退することは、「ない」が87.2%と最も高く、次いで「ほとんどない」8.1%、「たまにある」4.7%、「よくある」0.0%であった。



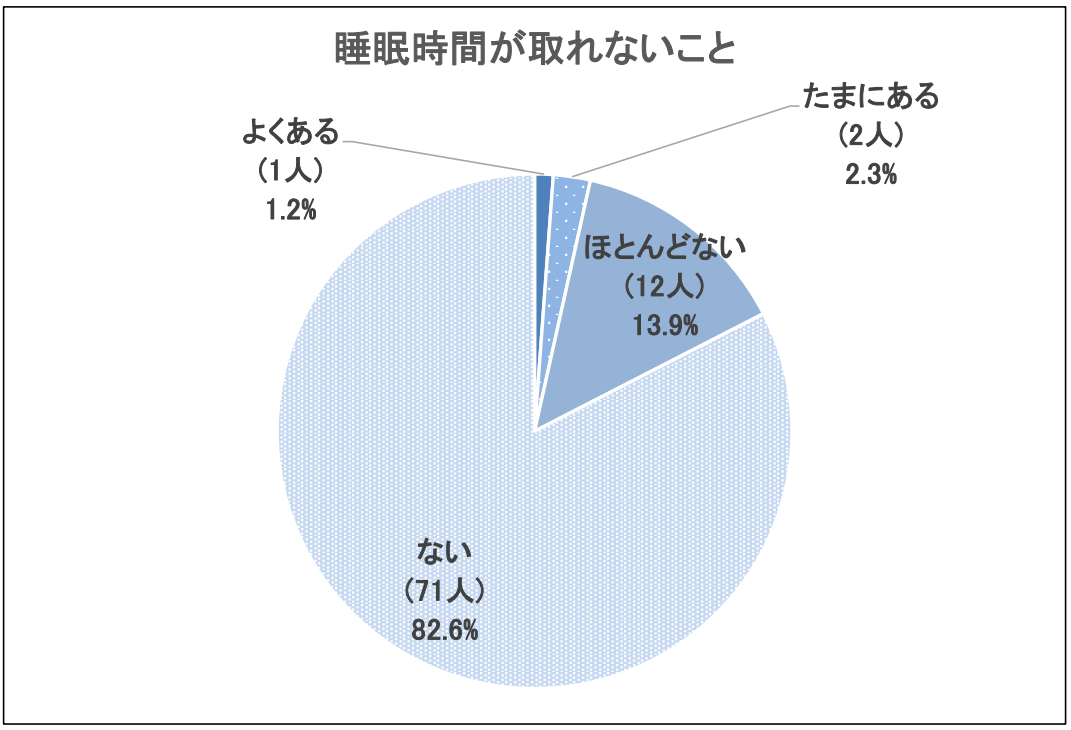
n=86人

③勉強する時間が取れないこと
　勉強する時間が取れないことは、「ない」が66.3%と最も高く、次いで「たまにある」及び「ほとんどない」16.3%、「よくある」1.1%であった。



n=86人

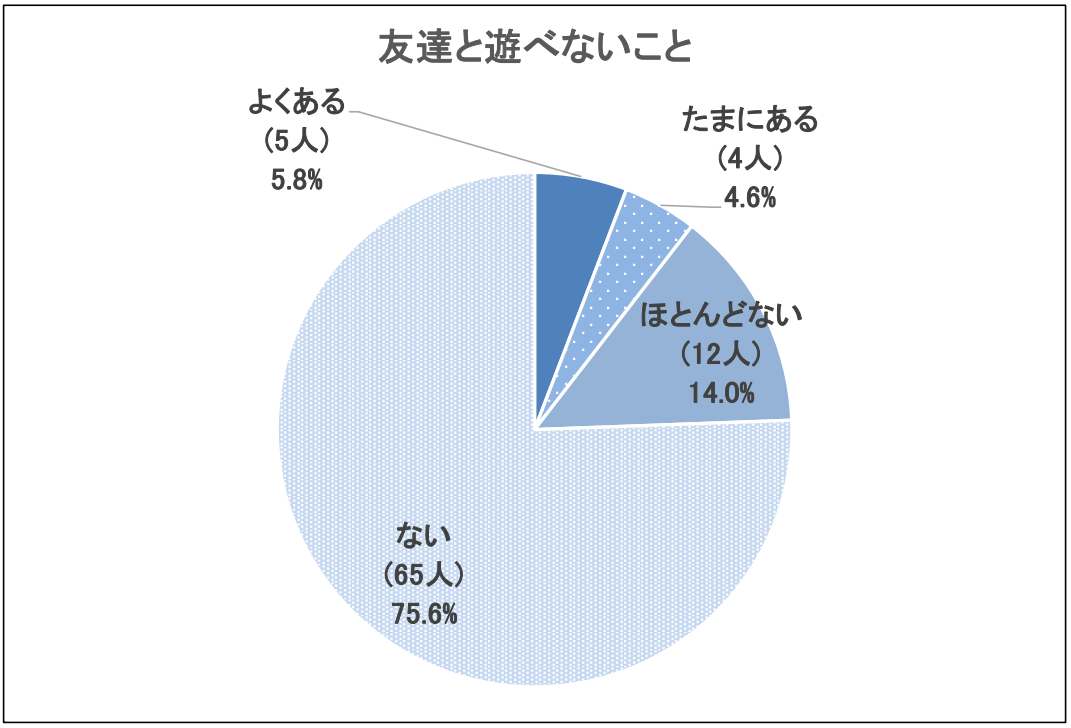
④睡眠時間が取れないこと
　睡眠時間が取れないことは、「ない」が82.6%と最も高く、次いで「ほとんどない」13.9%、「たまにある」2.3%、「よくある」1.2%であった。



n=86人

⑤友達と遊べないこと

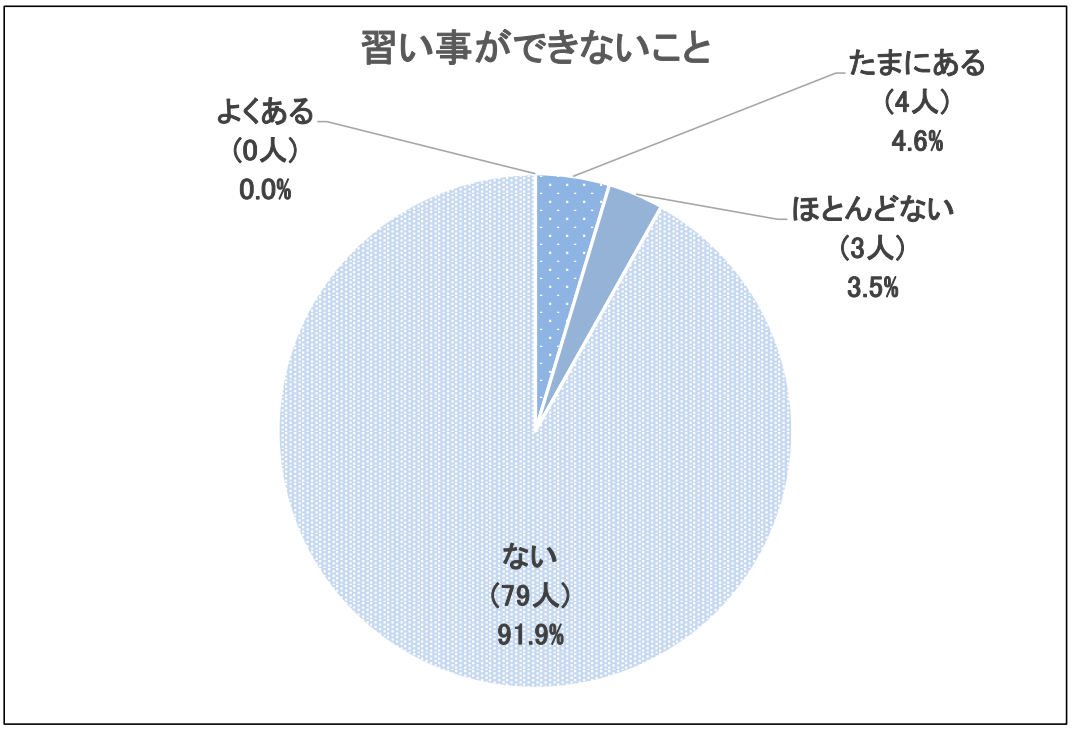
友達と遊べないことは、「ない」が75.6%と最も高く、次いで「ほとんどない」14.0%、「たまにある」4.6%、「よくある」5.8%であった。



n=86人

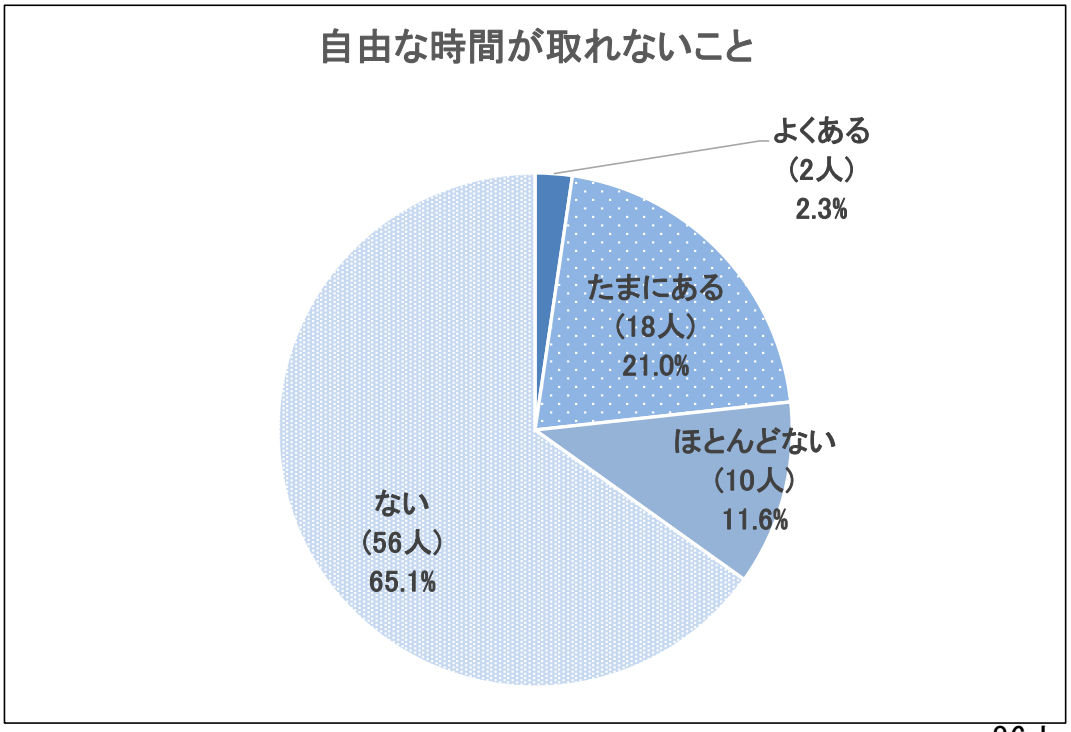
⑥習い事ができないこと

習い事ができないことは、「ない」が91.9%と最も高く、次いで「たまにある」4.6%、「ほとんどない」3.5%、「よくある」0.0%であった。



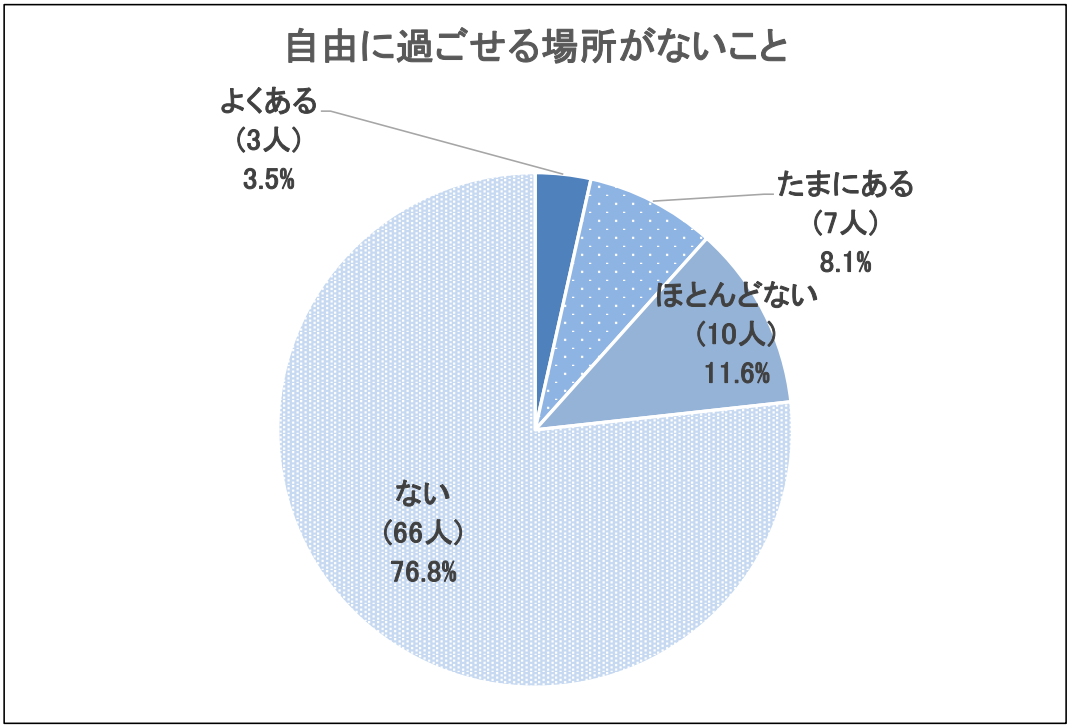
n=86人

⑦自由な時間が取れないこと
　自由な時間が取れないことは、「ない」が65.1%と最も高く、次いで「たまにある」21.0%、「ほとんどない」11.6%、「よくある」2.3%であった。



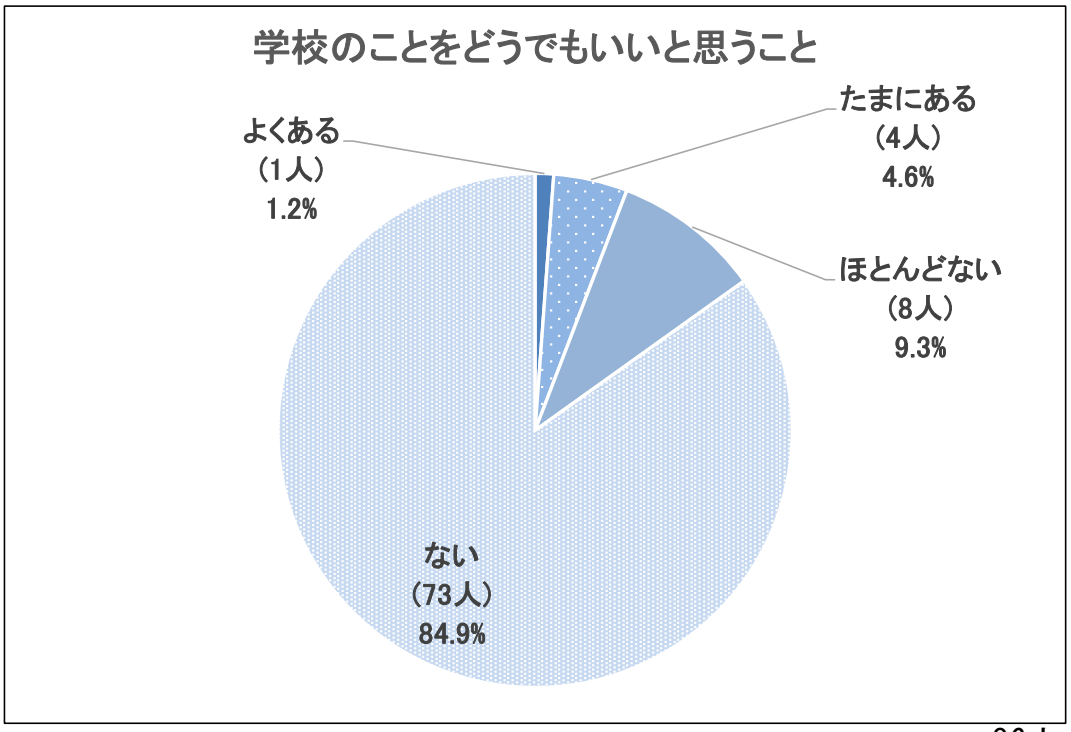
n=86人

⑧自由に過ごせる場所がないこと
　自由に過ごせる場所がないことは、「ない」が76.8%と最も高く、次いで「ほとんどない」11.6%、「たまにある」8.1%、「よくある」3.5%であった。



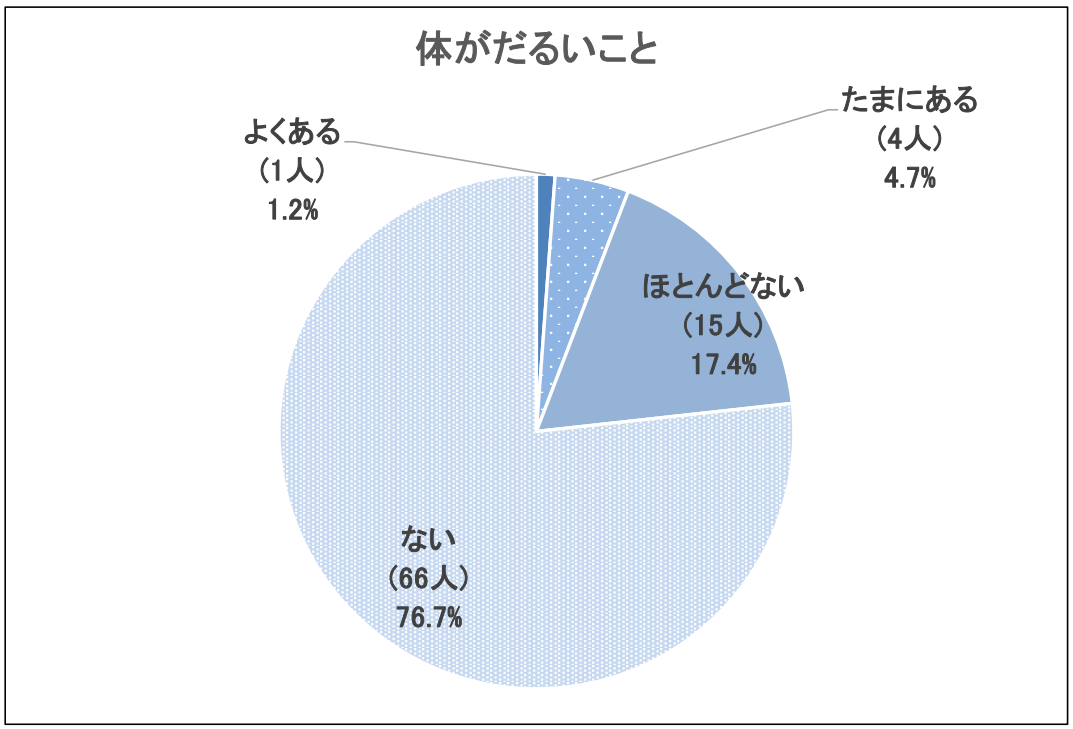
n=86人

⑨学校のことをどうでもいいと思うこと
　学校のことをどうでもいいと思うことは、「ない」が84.9%と最も高く、次いで「ほとんどない」9.3%、「たまにある」4.6%、「よくある」1.2%であった。



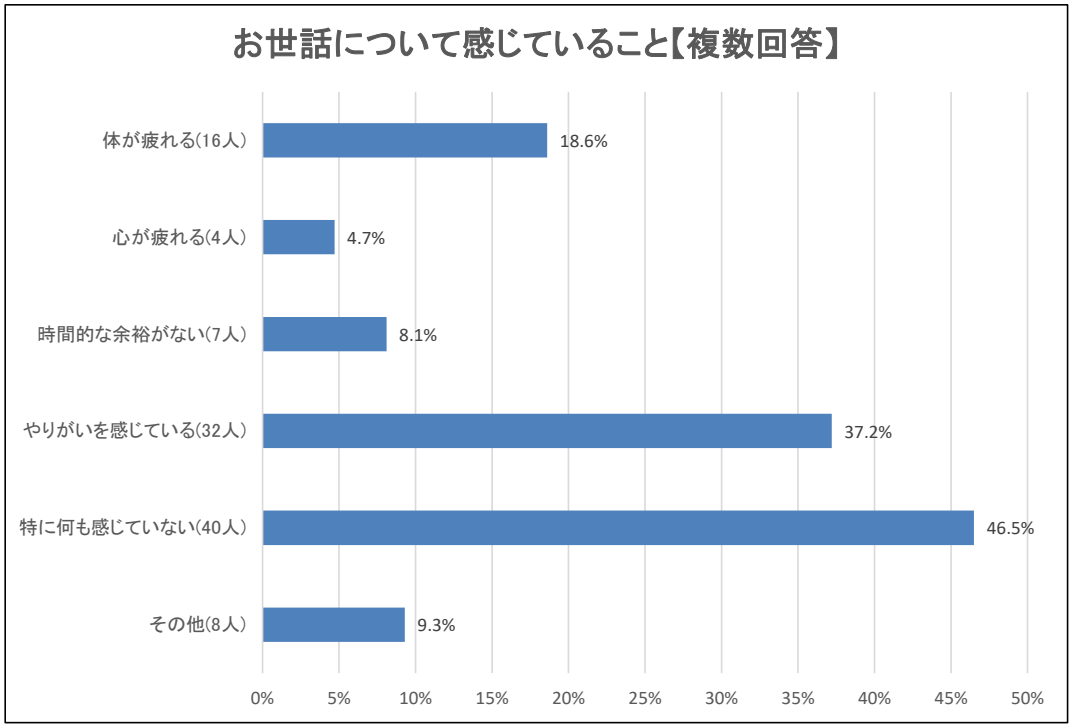
n=86人

⑩体がだるいこと
　体がだるいことは、「ない」が76.7%と最も高く、次いで「ほとんどない」17.4%、「たまにある」4.7%、「よくある」1.2%であった。



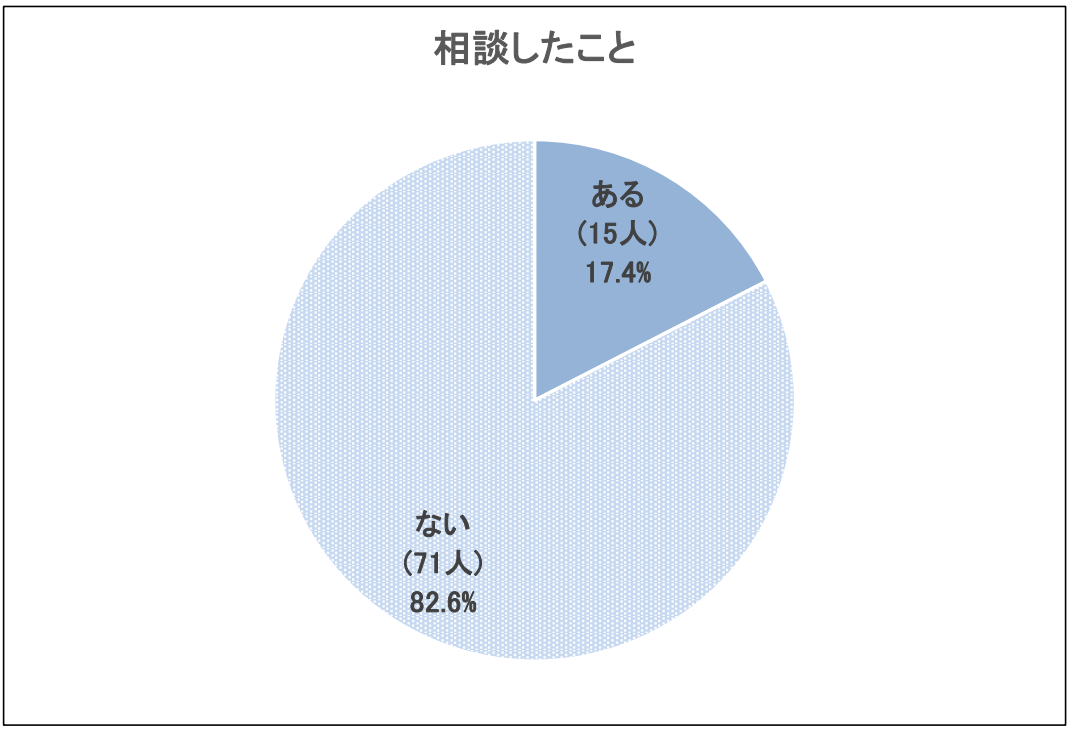
n=86人

⑪お世話について感じていること【複数回答】
　お世話について感じていることは、「特に何も感じていない」が46.5%と最も高く、次いで「やりがいを感じている」37.2%、「体が疲れる」18.6%であった。



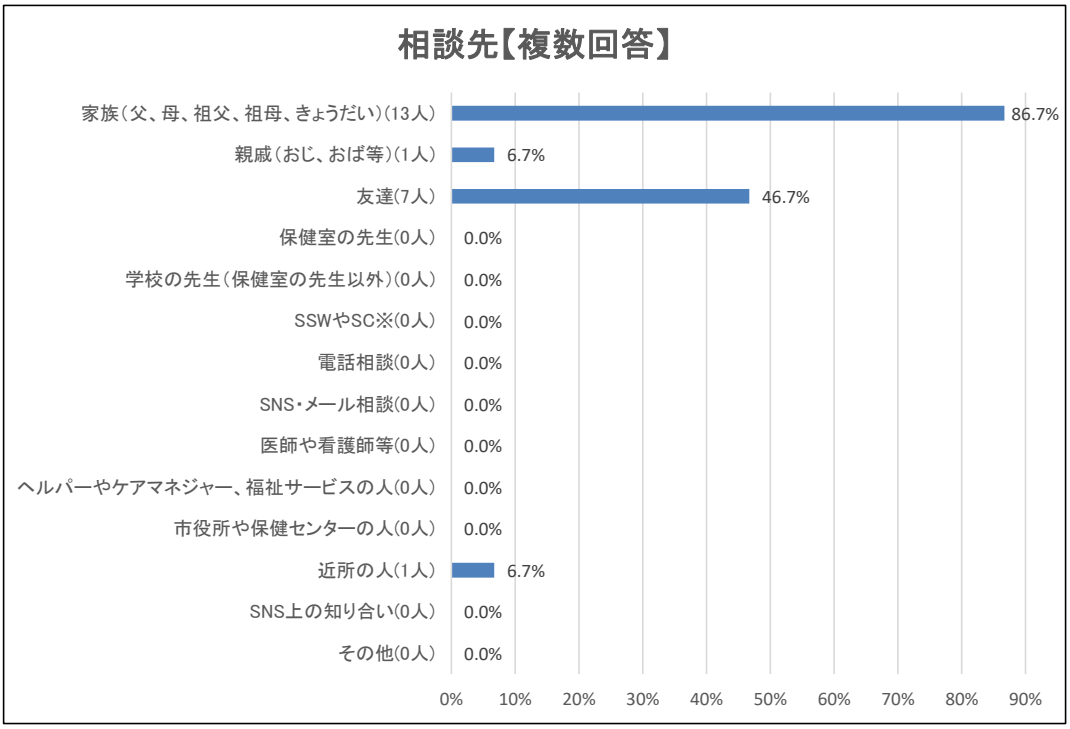
n=86人

（５）相談の状況
①相談したこと
　相談したことは、「ある」が17.4%、「ない」が82.6%であった。



n=86人

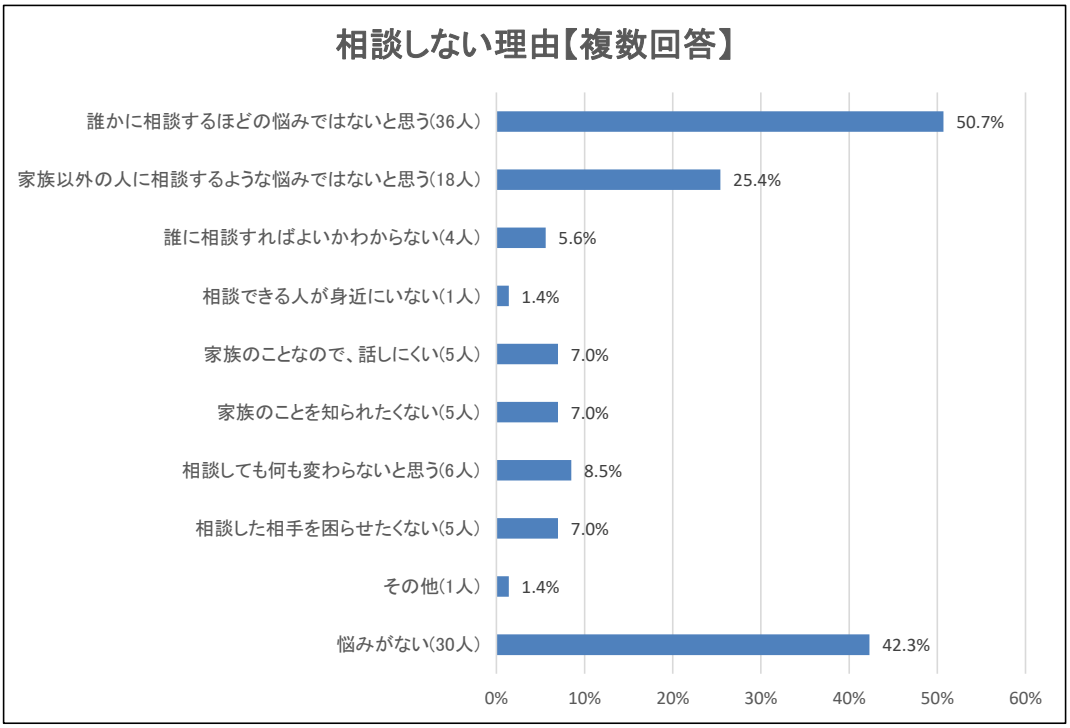
②相談先【複数回答】
　相談したことがあると回答した15人の相談先は、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が86.7%と最も多く、次いで「友達」46.7%、「親戚の人（おじ、おば等）」及び「近所の人」が6.7%であった。



※SSWやSC…スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー

n=15人

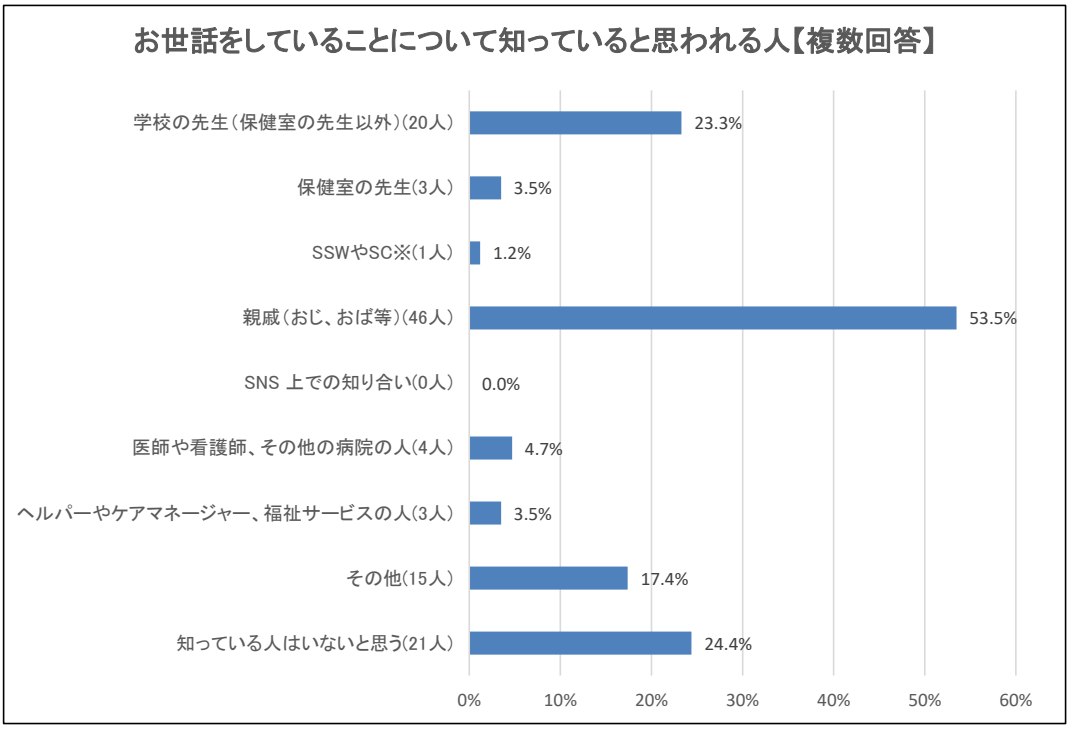
③相談しない理由【複数回答】
　相談したことがないと回答した71人の相談しない理由は、「誰かに相談するほどの悩みではないと思う」が50.7%と最も高く、次いで「悩みがない」42.3%、「家族以外の人に相談するような悩みではないと思う」25.4%であった。



n=71人

④お世話をしていることについて知っていると思われる人【複数回答】

お世話をしていることについて知っていると思われる人は「親戚（おじ、おば等）」が53.5%と最も高く、次いで「知っている人はいないと思う」24.4%、「学校の先生（保健室の先生以外）」23.3%であった。

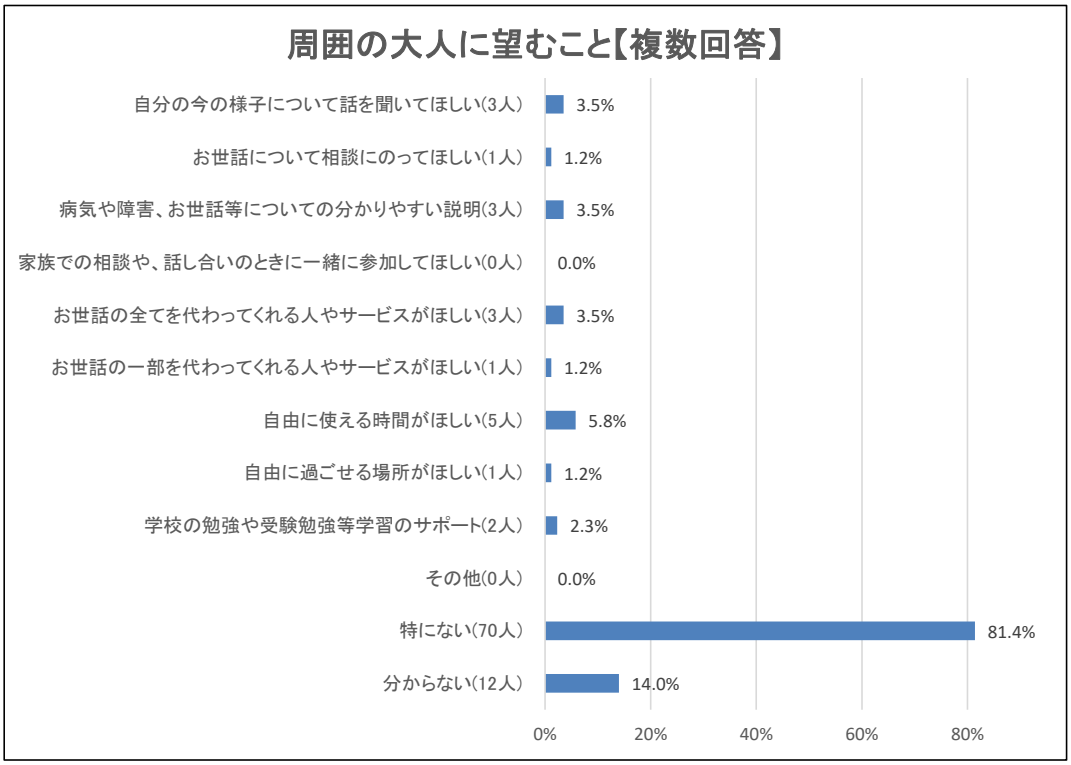


※SSWやSC…スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー

n=86人

⑤周囲の大人に望むこと【複数回答】

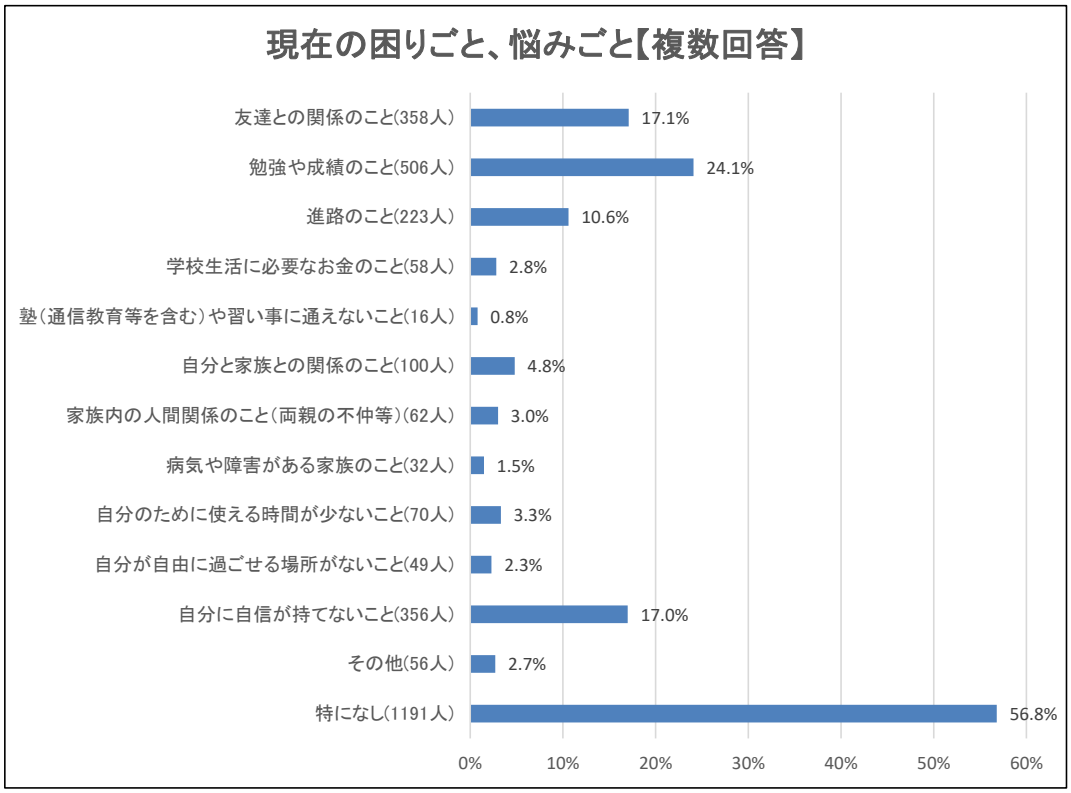
周囲の大人に望むことは、「特にない」が81.4%と最も高く、次いで「分からない」14.0%、「自由に使える時間がほしい」5.8%であった。



n=86人

（６）現在の困りごと、悩みごと【複数回答】

全回答者2,096人のうち、現在の困りごとや悩みごとについて、「特になし」が56.8%と最も高く、次いで「勉強や成績のこと」24.1%、「友達との関係のこと」17.1%であった。

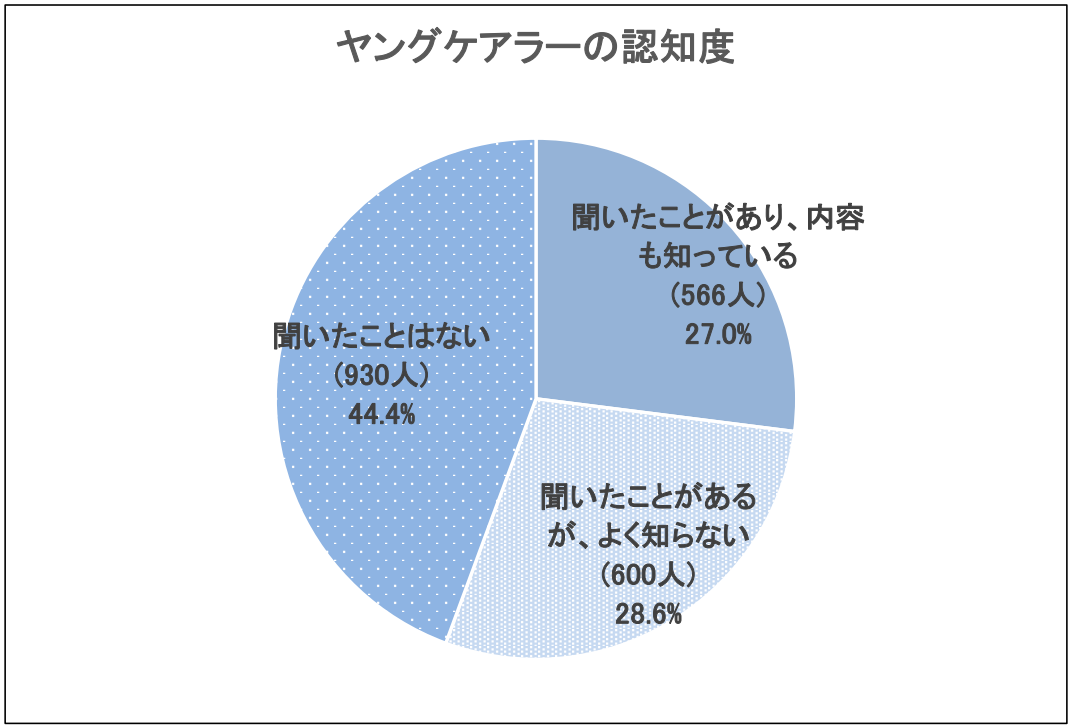


n=2,096人

（７）ヤングケアラーの認知度

①ヤングケアラーの認知度

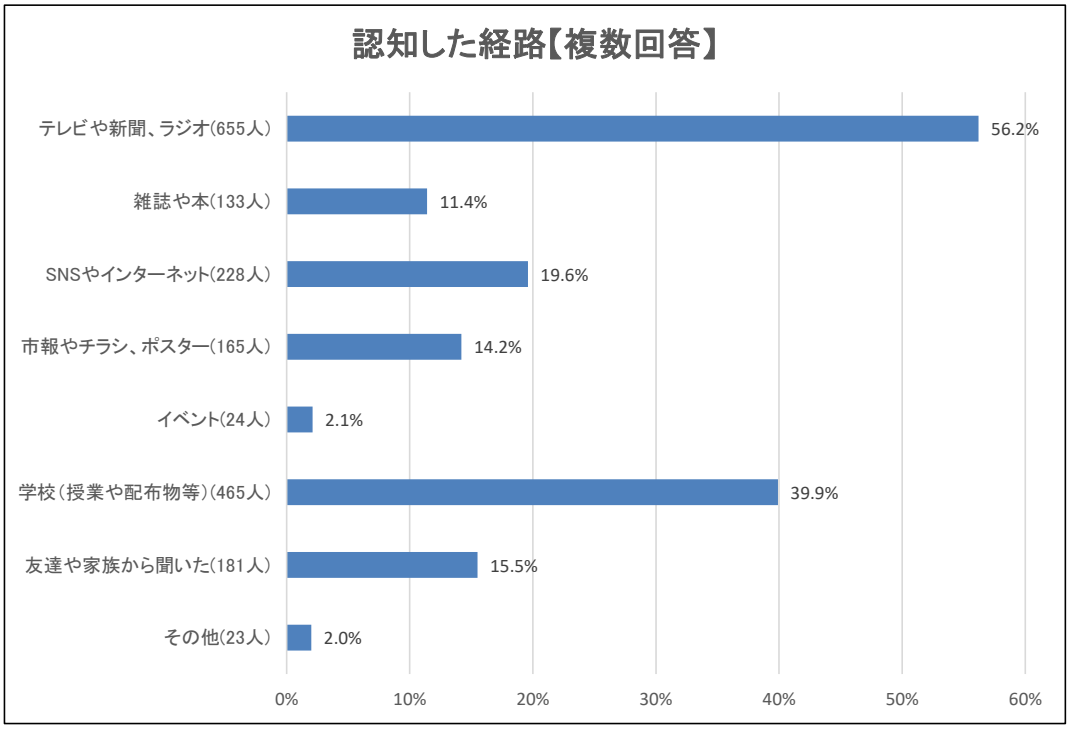
ヤングケアラーについて、「聞いたことはない」が44.4%と最も多く、次いで「聞いたことがあるが、よく知らない」28.6%、「聞いたことがあり、内容も知っている」27.0%であった。



n=2,096人

②認知した経路【複数回答】

ヤングケアラーについて、聞いたことがあると回答した1,166人が、ヤングケアラーを認知した経路は、「テレビや新聞、ラジオ」が56.2%と最も多く、次いで「学校（授業や配布物等）」39.9%、「SNSやインターネット」19.6%であった。



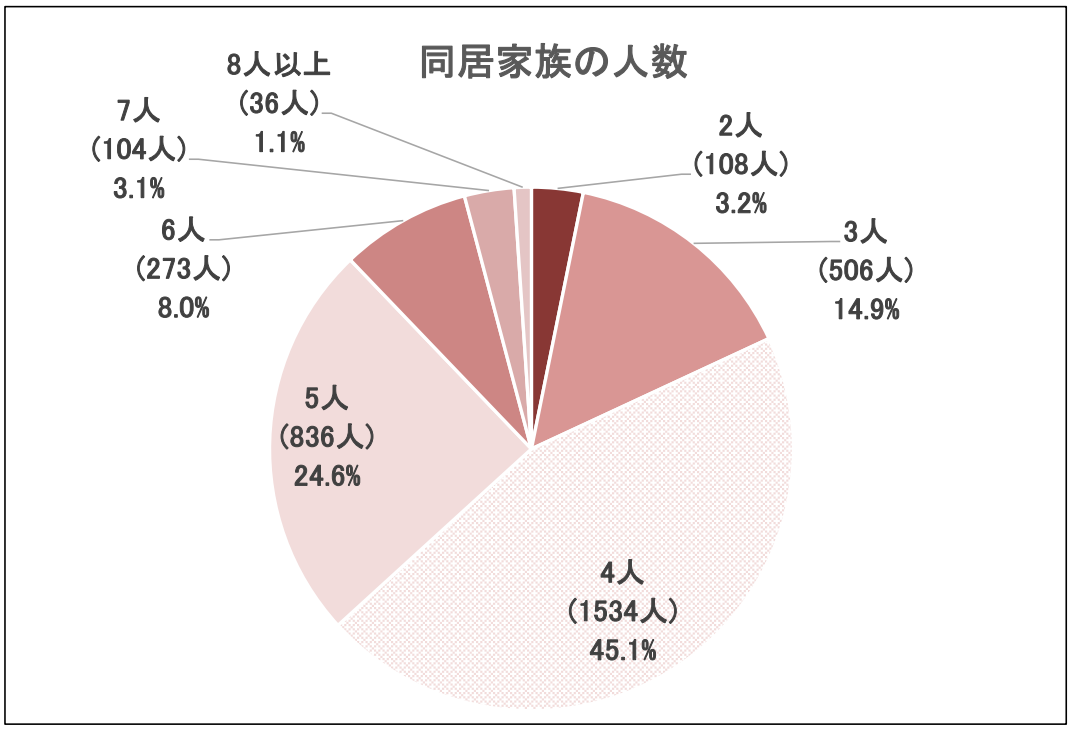
n=1,166人

3　中学生の調査結果

（１）家庭の状況

①同居家族の人数（自分を含む）

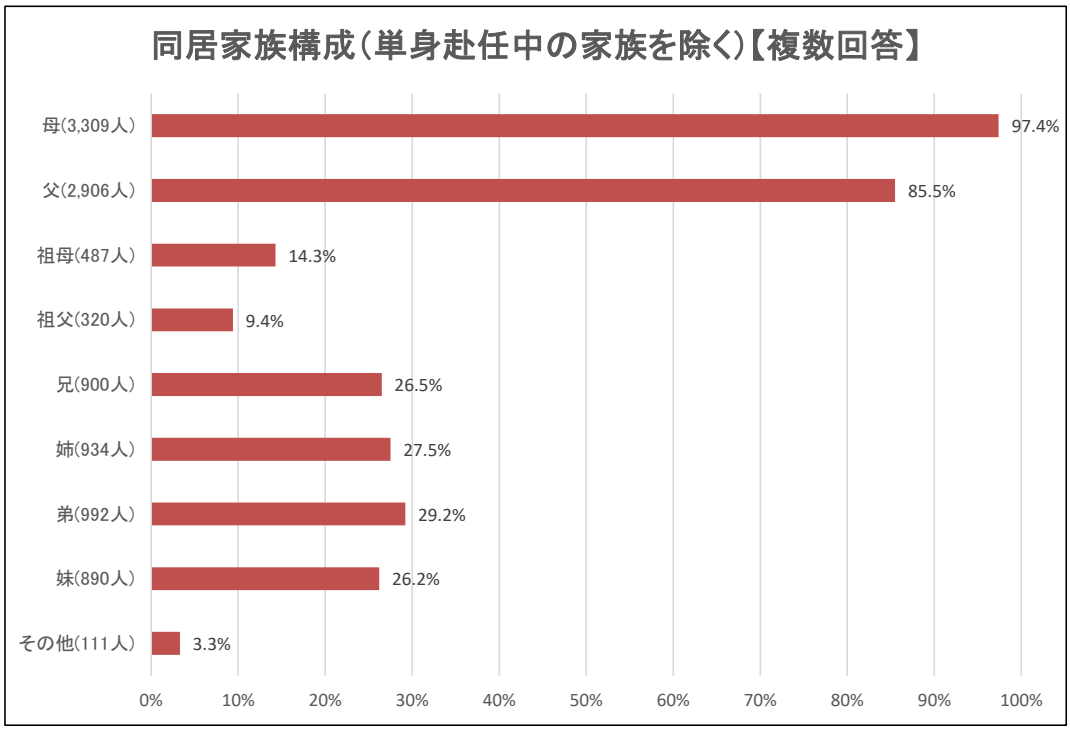
　全回答者3,397人のうち、同居家族の人数（自分を含む）は、「4人」45.1%と最も高く、次いで「5人」24.6%、「3人」14.9%であった。



n=3,397人

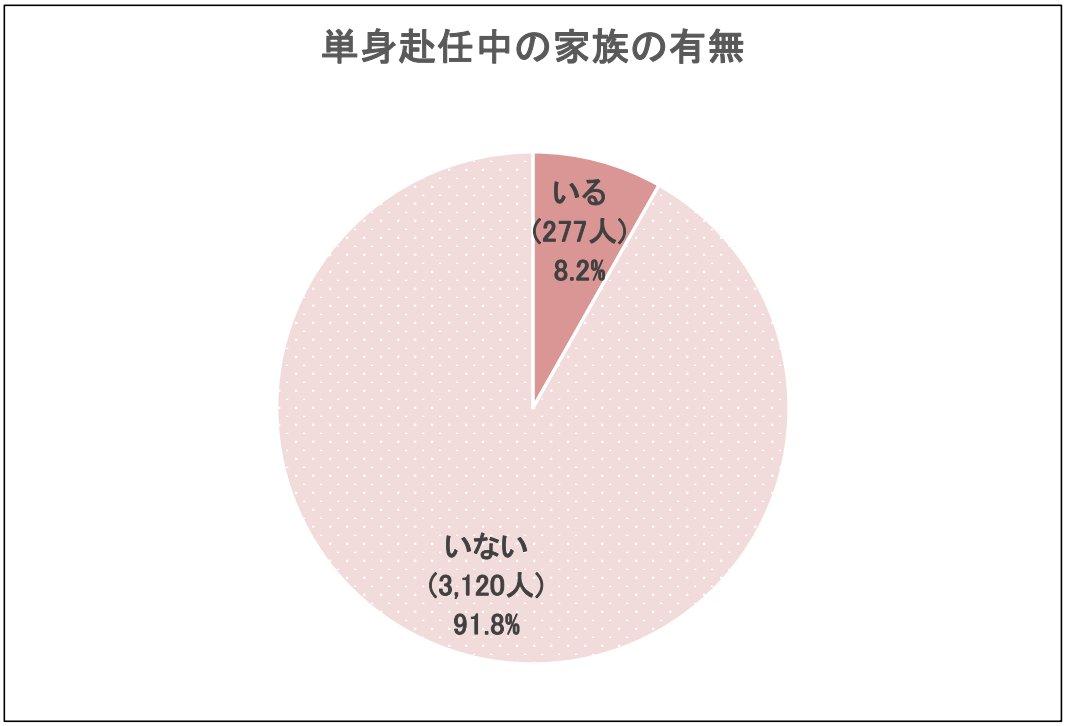
②同居家族構成（単身赴任中の家族を除く）【複数回答】

　同居家族構成（単身赴任中の家族を除く）は、「母」97.4%と最も高く、次いで「父」85.5%、「弟」29.2%であった。



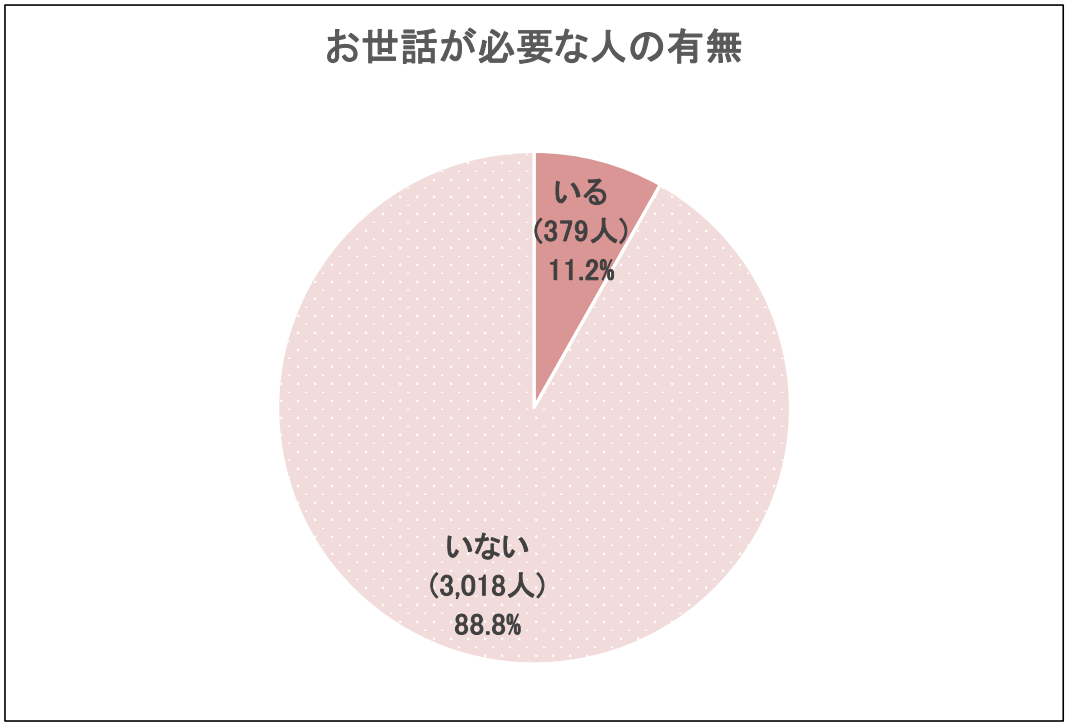
n=3,397人

③単身赴任中の家族の有無
　単身赴任中の家族は、「いる」8.2%、「いない」91.8%であった。



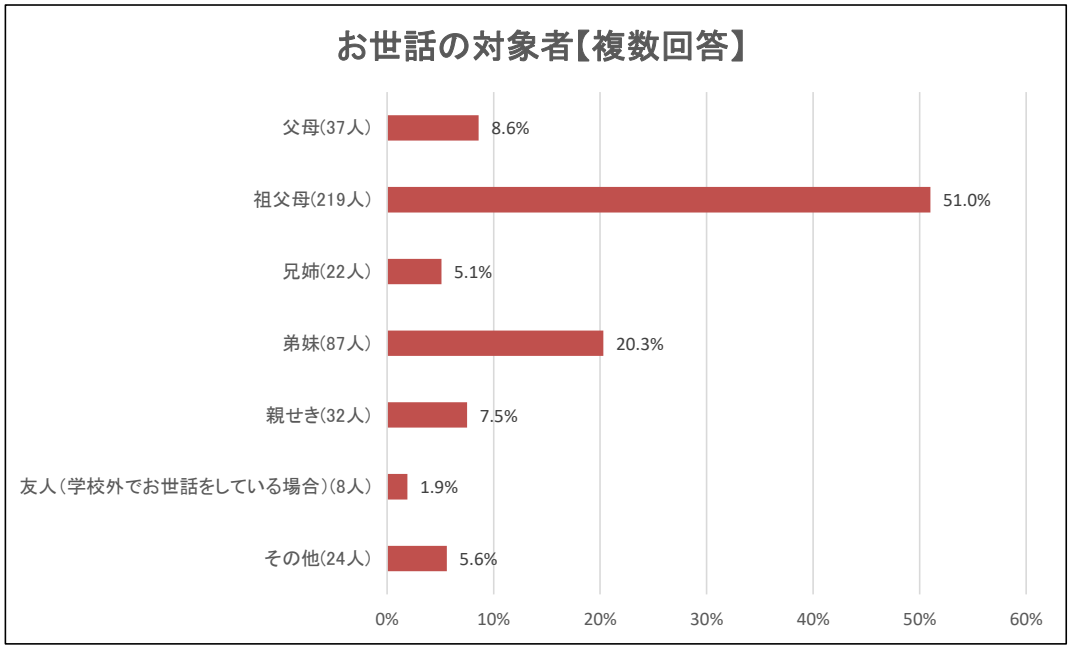
n=3,397人

（２）お世話の状況
①お世話が必要な人の有無
　お世話が必要な人は、「いる」11.2%、「いない」88.8%であった。



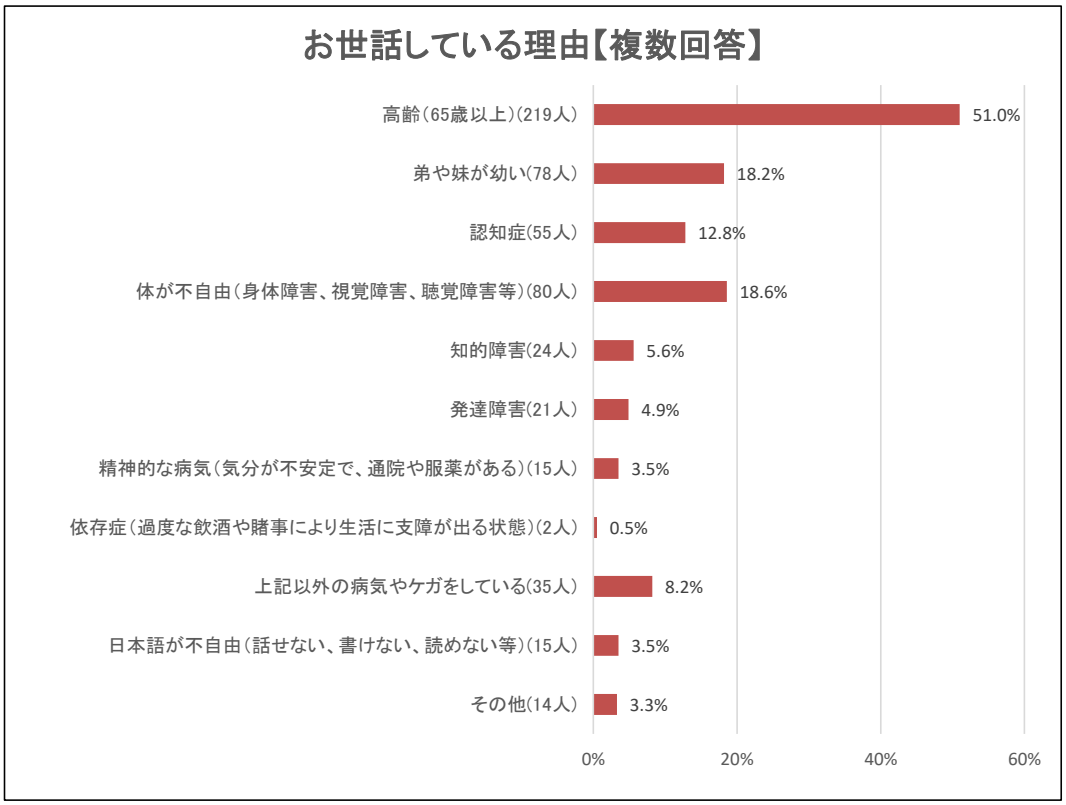
n=3,397人

②お世話の対象者【複数回答】
　お世話の対象者（n=429人※）のうち、「祖父母」51.0%と最も高く、次いで「弟妹」20.3%、「父母」8.6%であった。
※お世話が必要な人の有無において、「いる」と回答した379人がお世話している人数



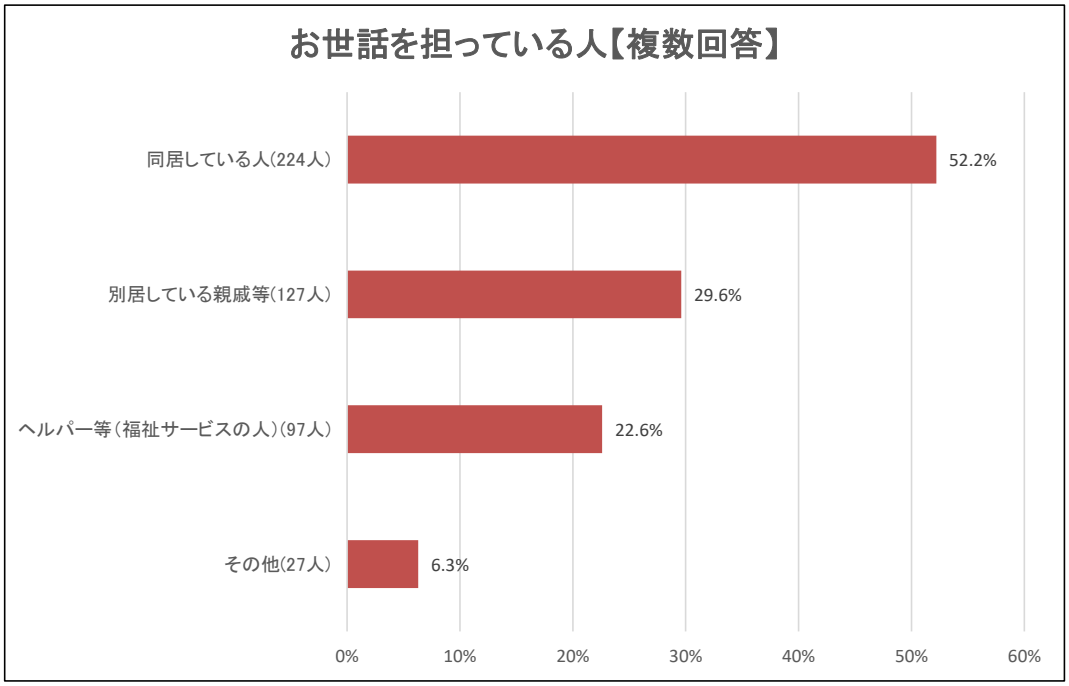
n=429人

③お世話している理由【複数回答】
　お世話している理由は、「高齢（65歳以上）」51.0%と最も高く、次いで「体が不自由（身体障害、視覚障害、聴覚障害等）」18.6%、「弟や妹が幼い」18.2%であった。



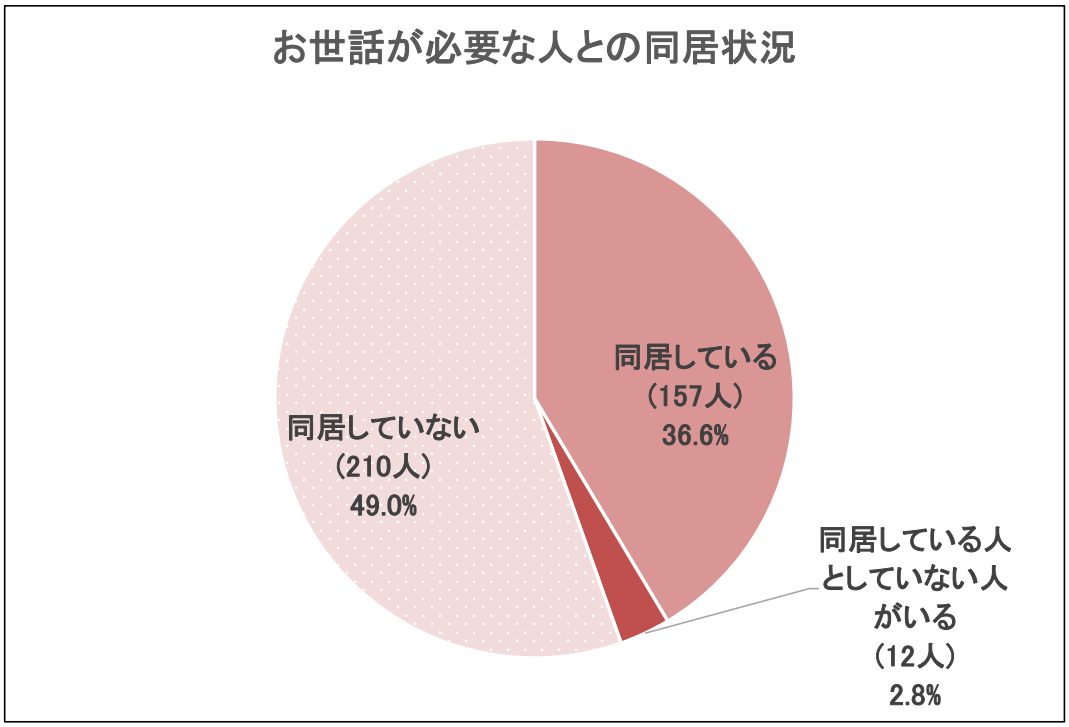
n=429人

④お世話を担っている人【複数回答】
　お世話を担っている人は、「同居している人」52.2%と最も高く、次いで「別居している親戚等」29.6%、「ヘルパー等（福祉サービスの人）」22.6%であった。



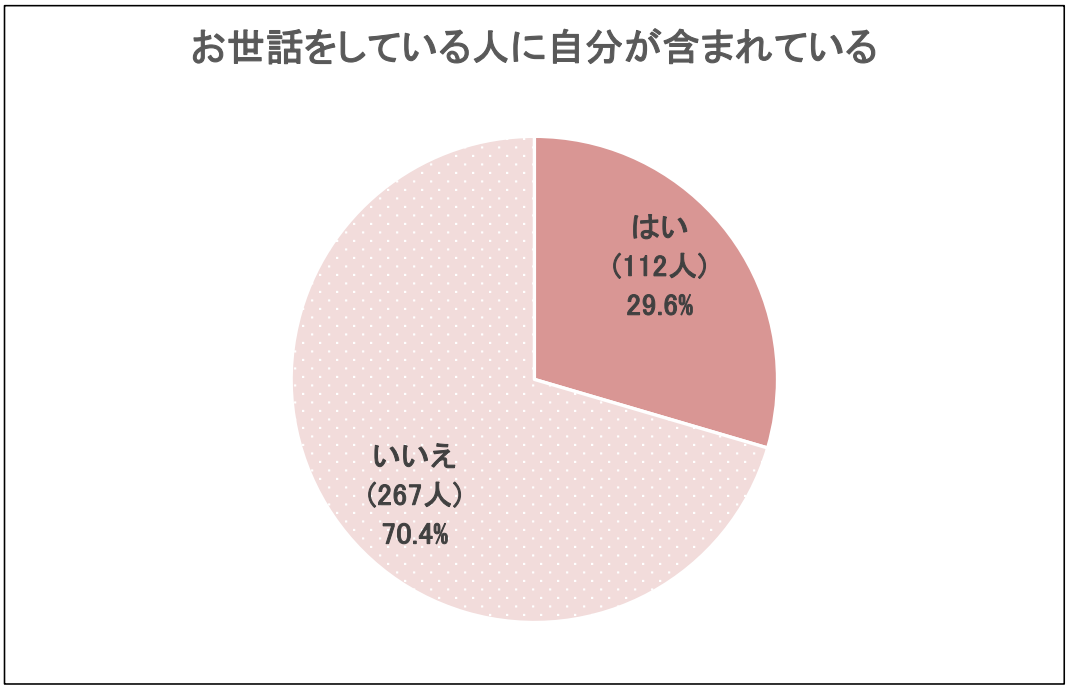
n=429人

⑤お世話が必要な人との同居状況
　お世話が必要な人の有無において「いる」と回答した379人のお世話が必要な人との同居状況は、「同居していない」49.0%と最も高く、次いで「同居している」36.6%、「同居している人としていない人がいる」2.8%であった。



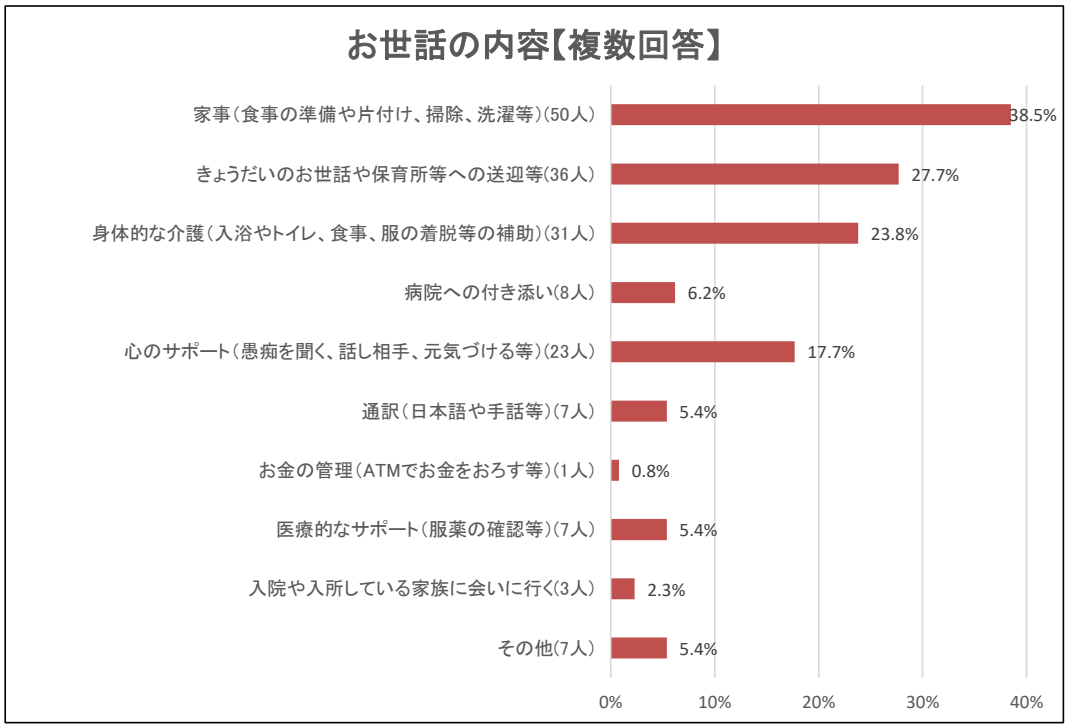
n=379人

⑥お世話をしている人に自分が含まれている
　お世話をしている人に自分が含まれている人は、29.6%であった。



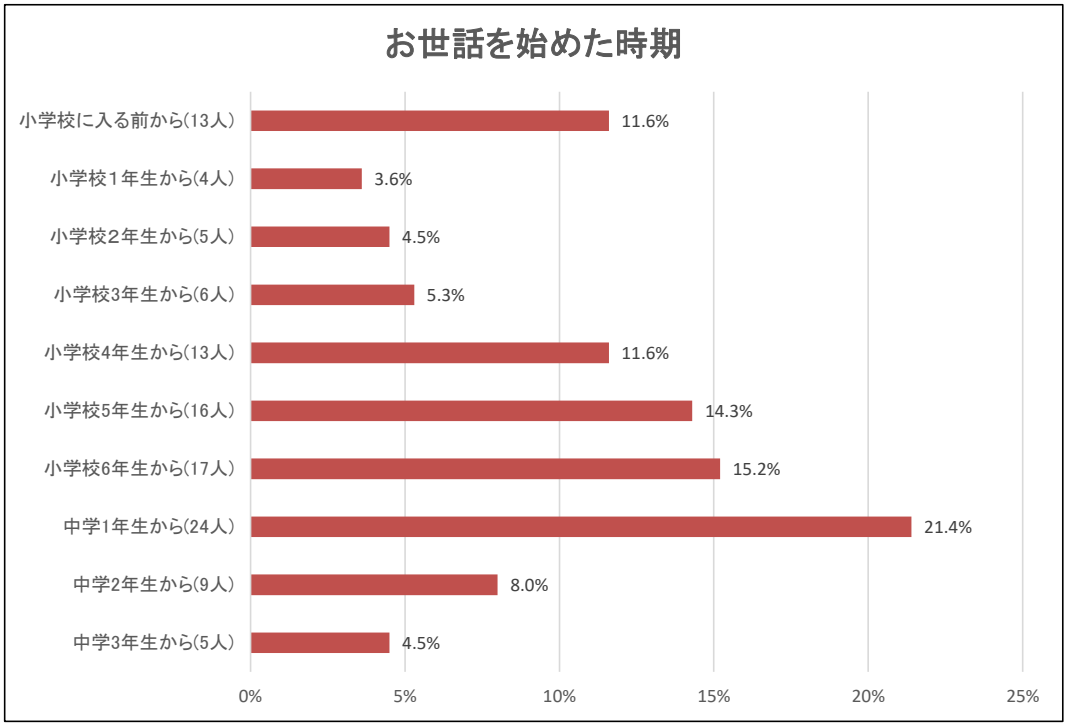
n=379人

（３）お世話を担っている人の状況
①お世話の内容【複数回答】
　お世話が必要な人（n=130人※）のお世話の内容は、「家事（食事の準備や片付け、掃除、洗濯等）」38.5%と最も高く、次いで「きょうだいのお世話や保育所等への送迎等」27.7%、「身体的な介護（入浴やトイレ、食事、服の着脱等の補助）」23.8%であった。
※お世話をしている人に自分が含まれている112人がお世話をしている人数



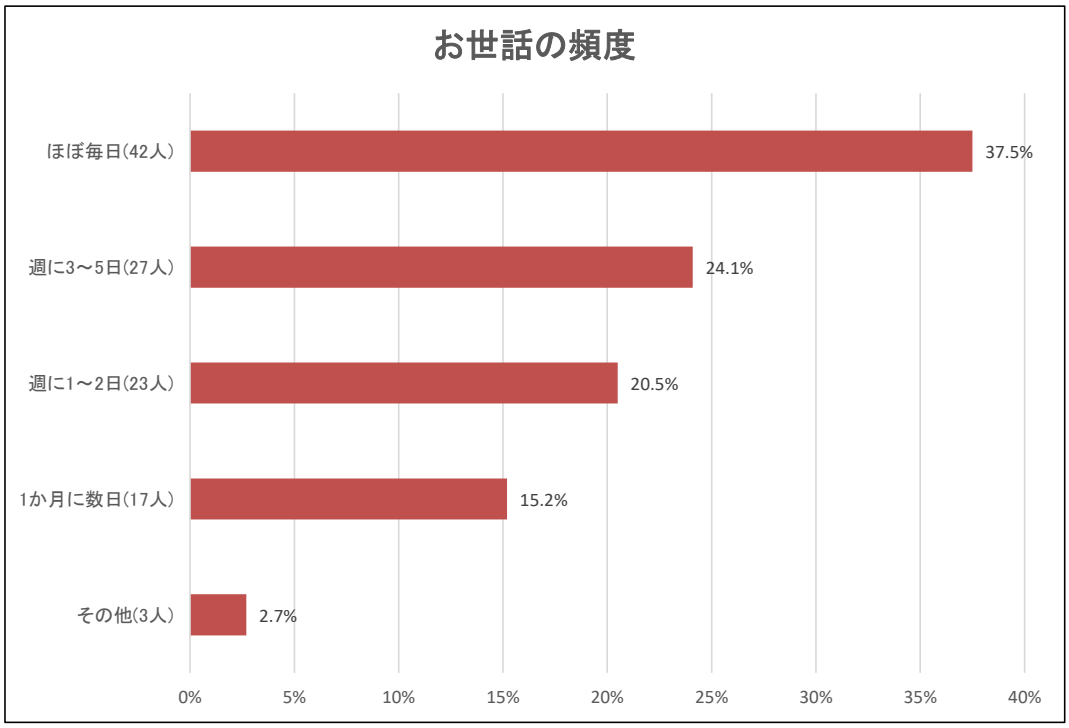
n=130人

②お世話を始めた時期
　お世話をしている人に自分が含まれている112人のうち、お世話を始めた時期は、「中学1年生から」が21.4%と最も高く、次いで「小学校6年生から」15.2%、「小学校5年生から」14.3%であった。



n=112人

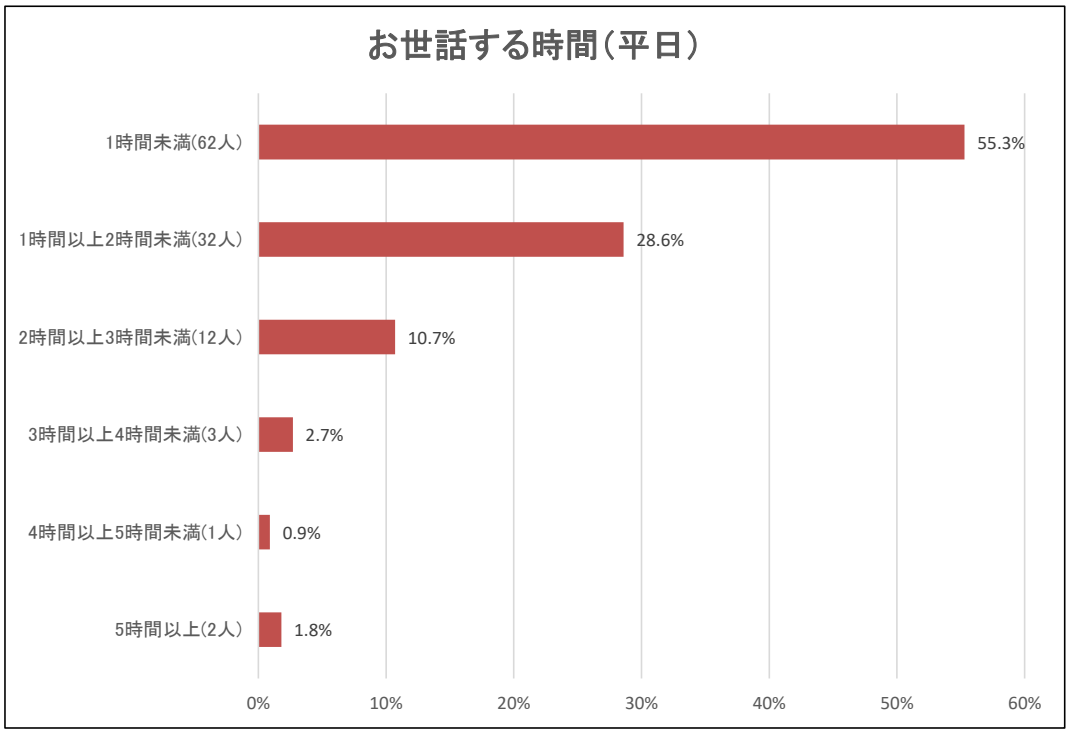
③お世話の頻度
　お世話の頻度は、「ほぼ毎日」37.5%と最も高く、次いで「週に3～5日」24.1%、「週に1～2日」20.5%であった。



n=112人

④お世話する時間（平日）

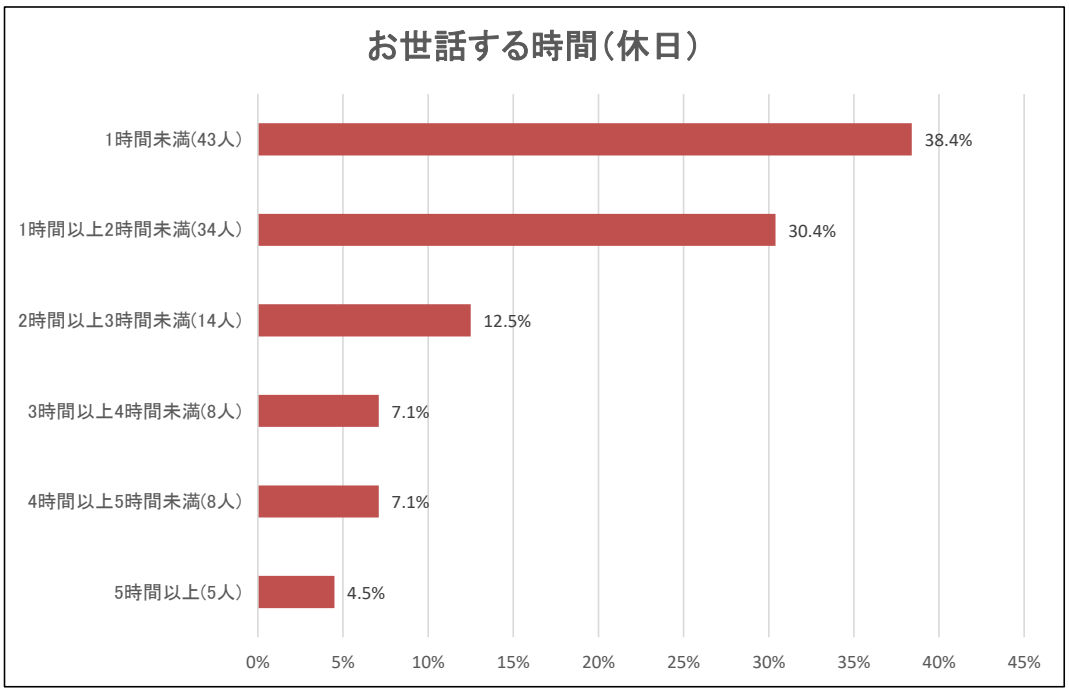
平日のお世話に費やす時間は、「1時間未満」55.3%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」28.6%、「2時間以上3時間未満」10.7%であった。



n=112人

⑤お世話する時間（休日）

休日のお世話に費やす時間は、「1時間未満」が38.4%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」30.4%、「2時間以上3時間未満」12.5%であった。

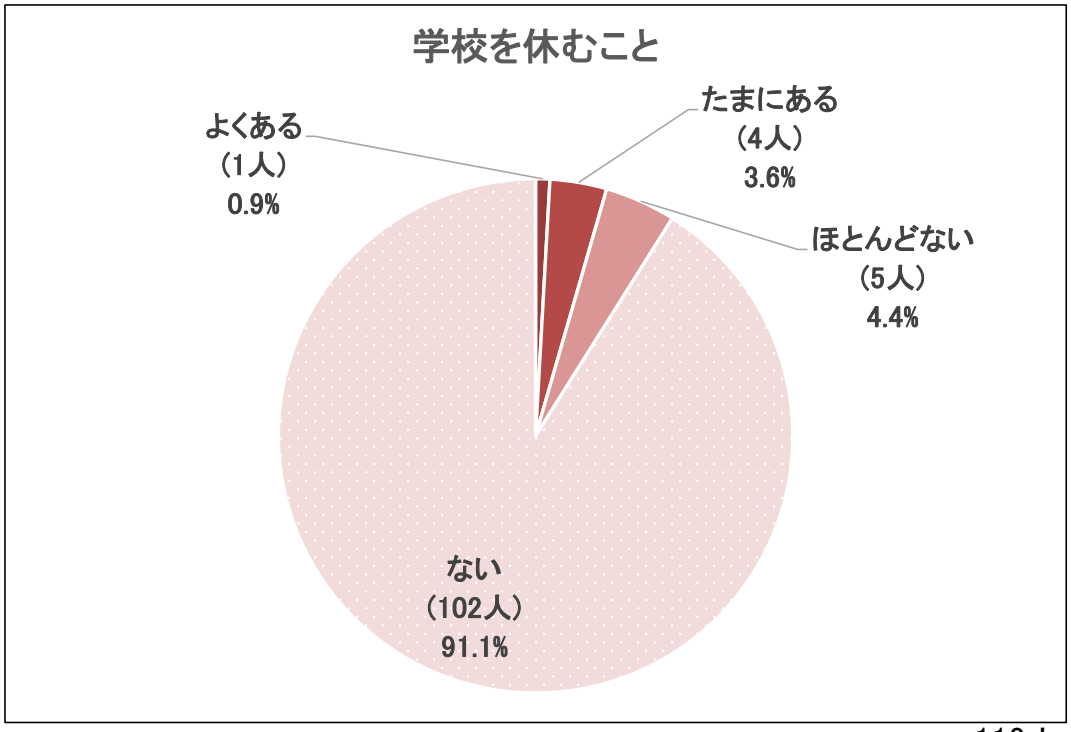


n=112人

（４）お世話による影響

①学校を休むこと

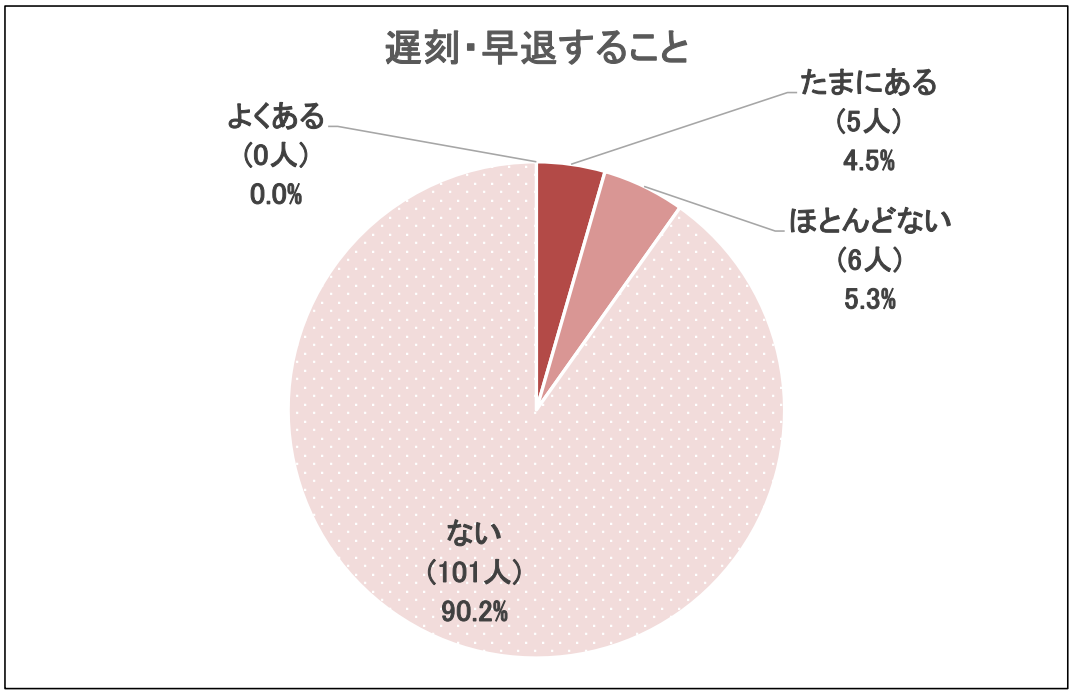
学校を休むことは、「ない」が91.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」4.4%、「たまにある」3.6%、「よくある」0.9%であった。



n=112人

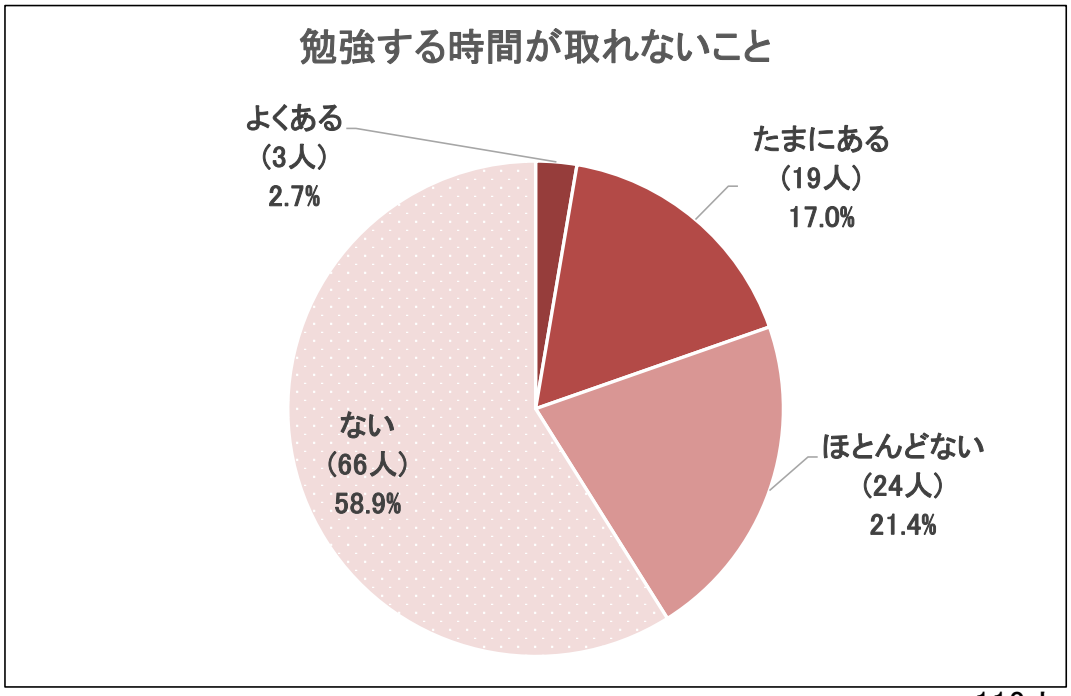
②遅刻・早退すること

遅刻・早退することは、「ない」が90.2%と最も高く、次いで「ほとんどない」5.3%、「たまにある」4.5%、「よくある」0.0%であった。



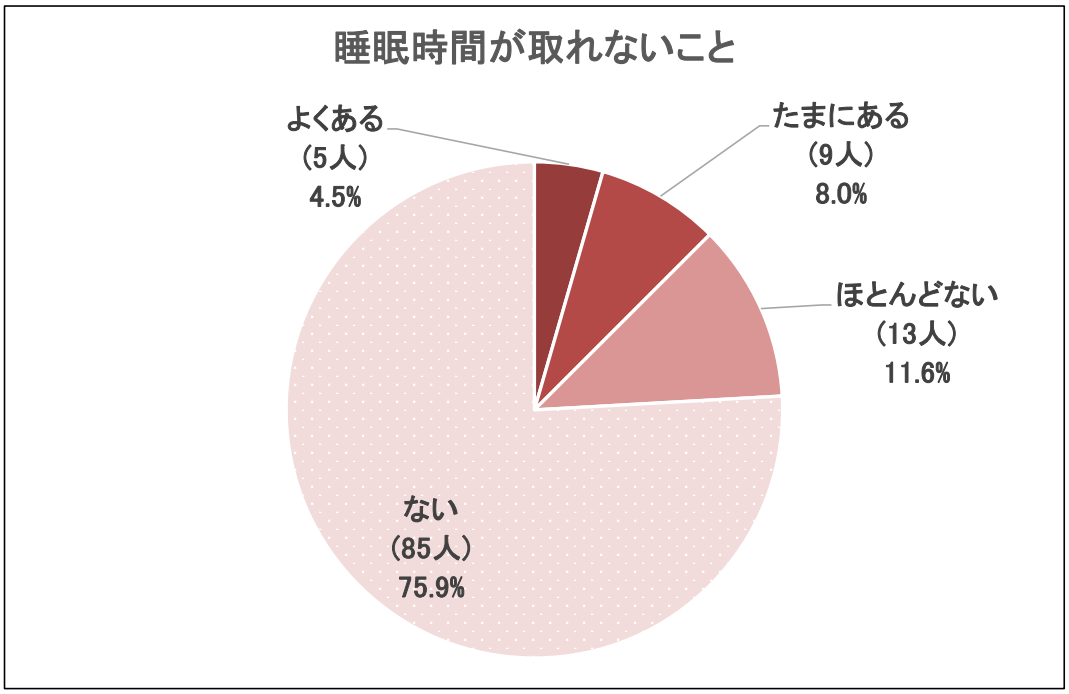
n=112人

③勉強する時間が取れないこと
　勉強する時間が取れないことは、「ない」が58.9%と最も高く、次いで「ほとんどない」21.4%、「たまにある」17.0%、「よくある」2.7%であった。



n=112人

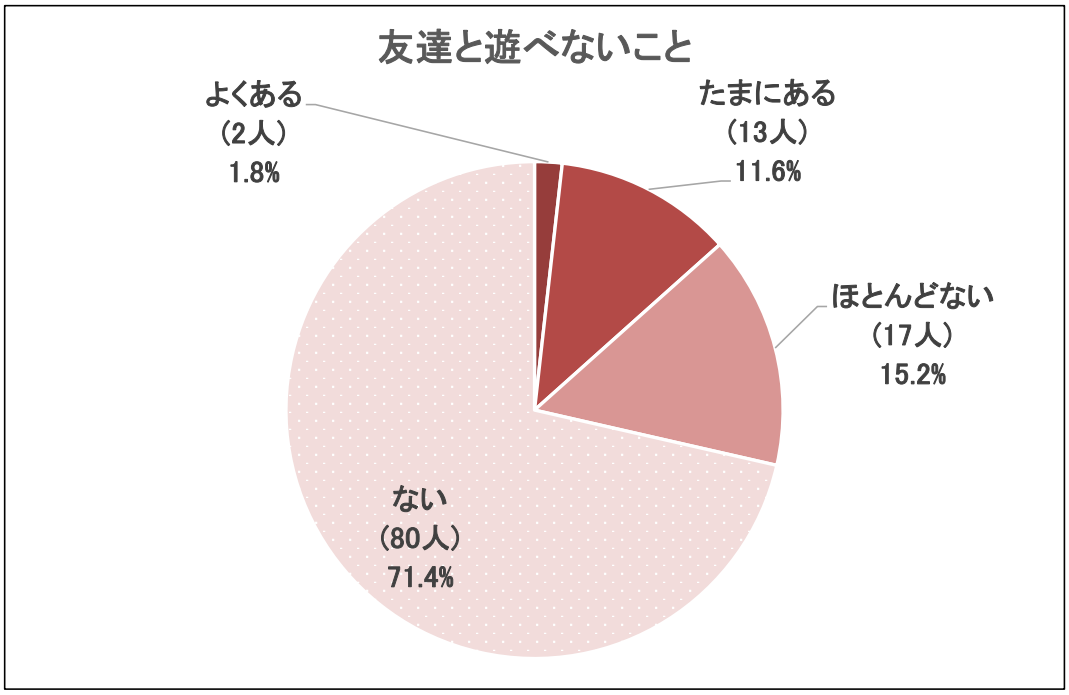
④睡眠時間が取れないこと
　睡眠時間が取れないことは、「ない」が75.9%と最も高く、次いで「ほとんどない」11.6%、「たまにある」8.0%、「よくある」4.5%であった。



n=112人

⑤友達と遊べないこと

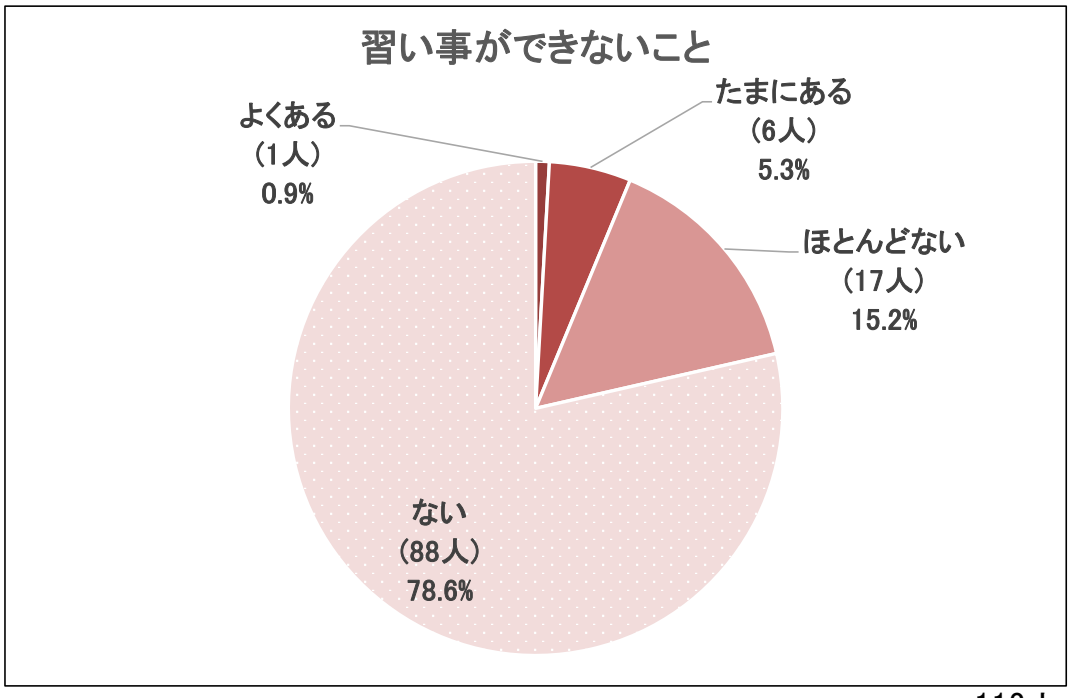
友達と遊べないことは、「ない」が71.4%と最も高く、次いで「ほとんどない」15.2%、「たまにある」11.6%、「よくある」1.8%であった。



n=112人

⑥習い事ができないこと

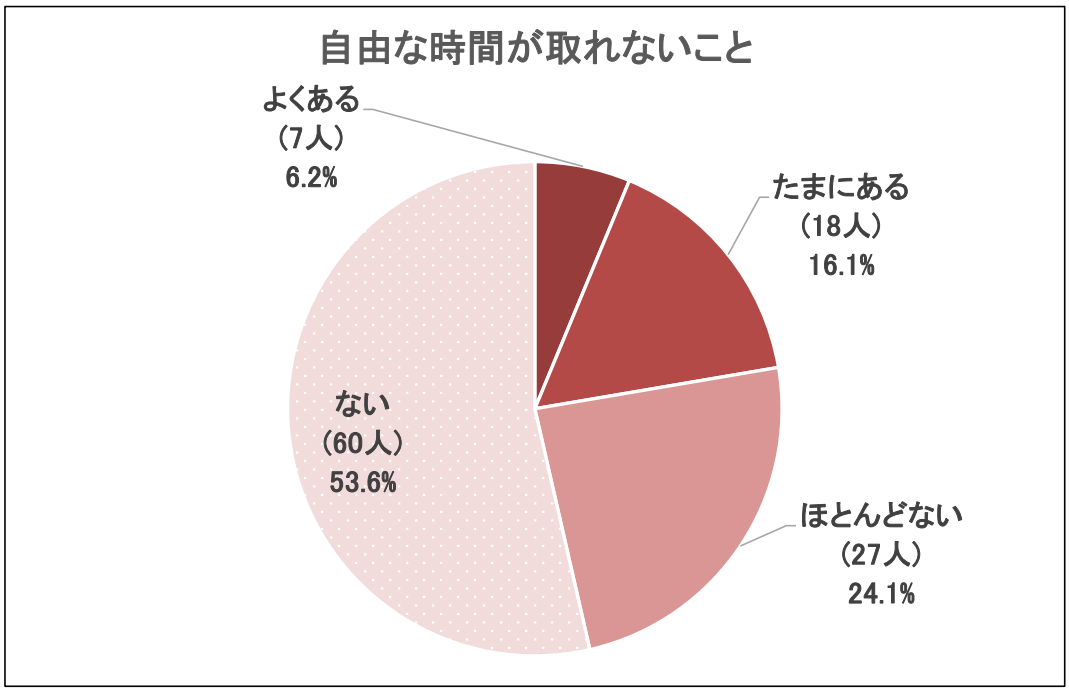
習い事ができないことは、「ない」が78.6%と最も高く、次いで「ほとんどない」15.2%、「たまにある」5.3%、「よくある」0.9%であった。



n=112人

⑦自由な時間が取れないこと

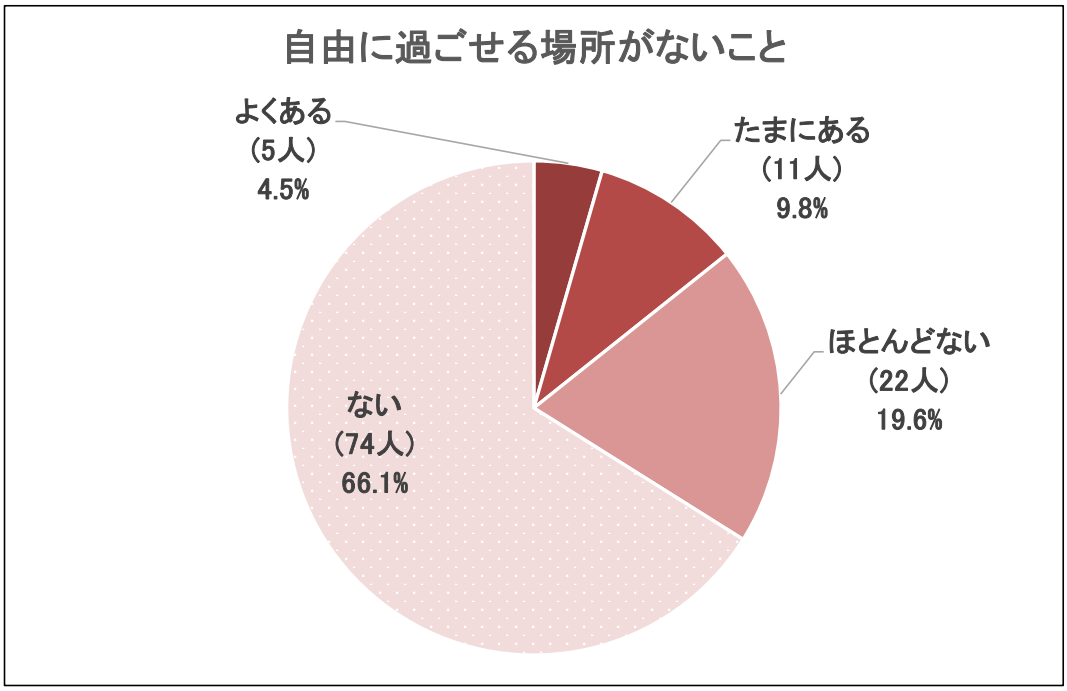
自由な時間が取れないことは、「ない」が53.6%と最も高く、次いで「ほとんどない」24.1%、「たまにある」16.1%、「よくある」6.2%であった。



n=112人

⑧自由に過ごせる場所がないこと

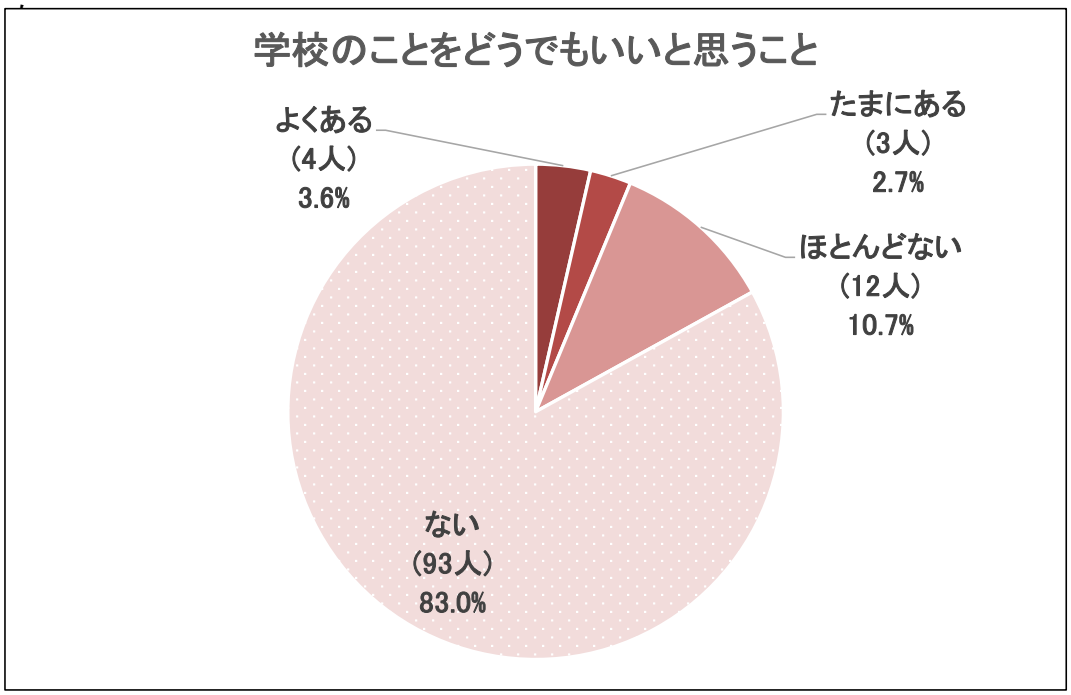
自由に過ごせる場所がないことは、「ない」66.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」19.6%、「たまにある」9.8%、「よくある」4.5%であった。



n=112人

⑨学校のことをどうでもいいと思うこと

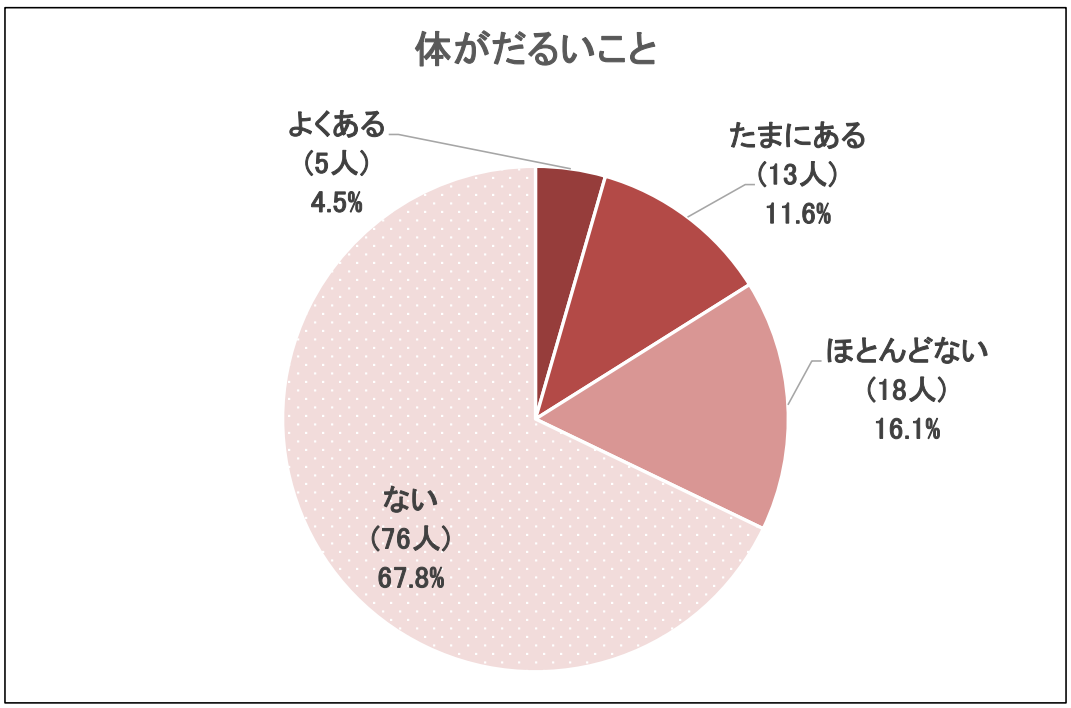
学校のことをどうでもいいと思うことは、「ない」83.0%と最も高く、次いで「ほとんどない」10.7%、「よくある」3.6%、「たまにある」2.7%であった。



n=112人

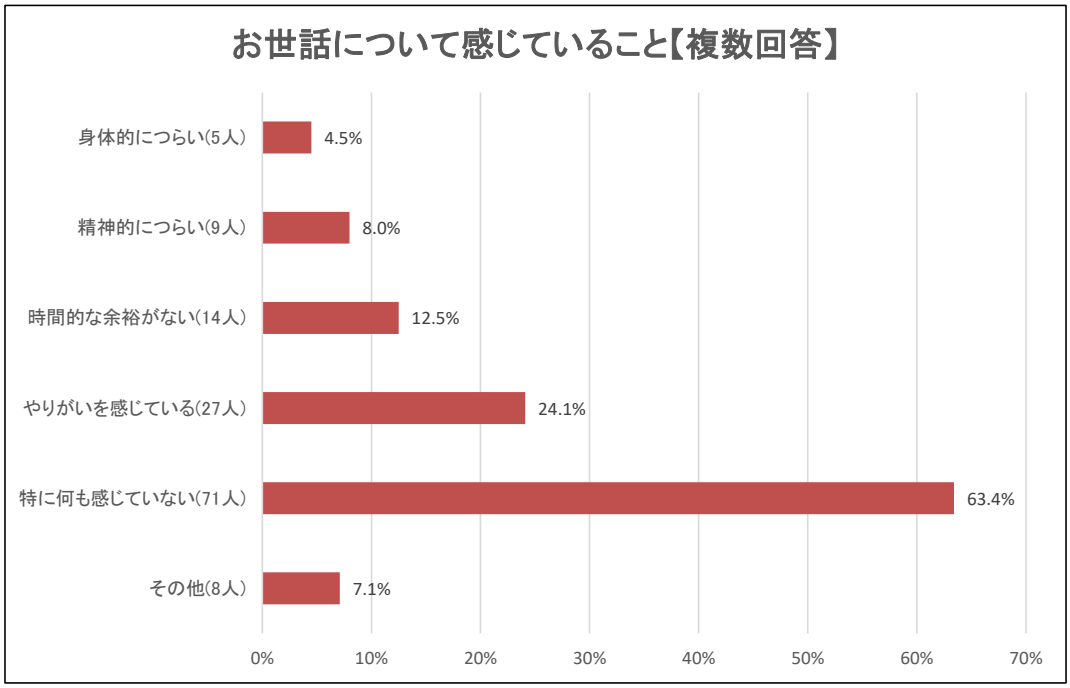
⑩体がだるいこと

体がだるいことは、「ない」67.8%と最も高く、次いで「ほとんどない」16.1%、「たまにある」11.6%、「よくある」4.5%であった。



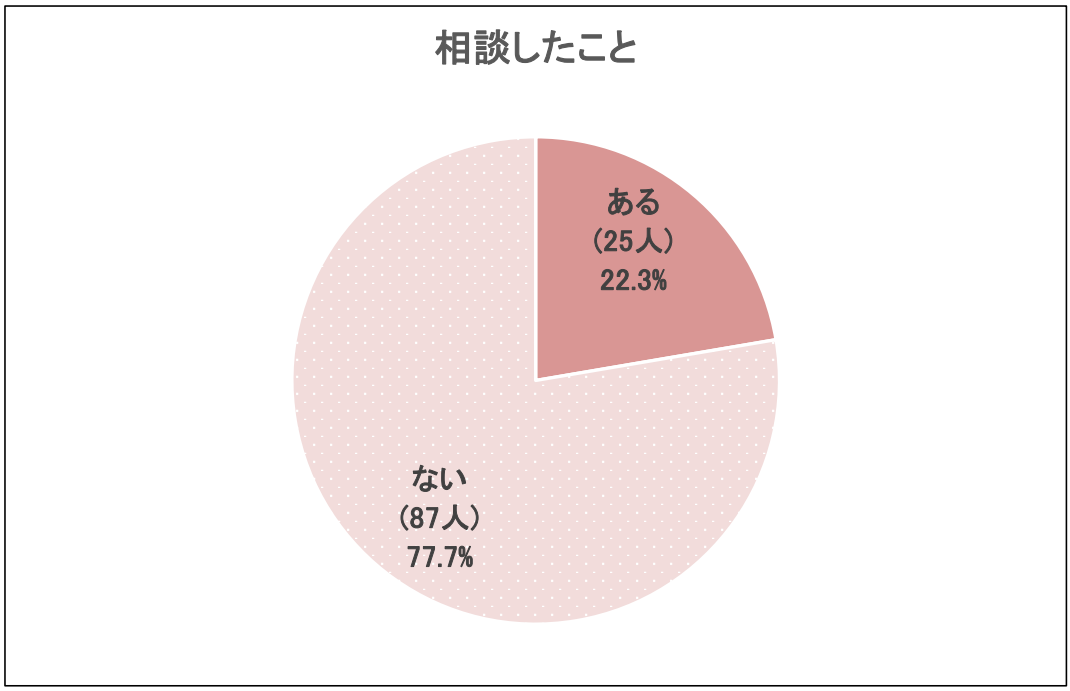
n=112人

⑪お世話について感じていること【複数回答】
　お世話について感じていることは、「特に何も感じていない」が63.4%と最も高く、次いで「やりがいを感じている」24.1%、「時間的な余裕がない」12.5%であった。



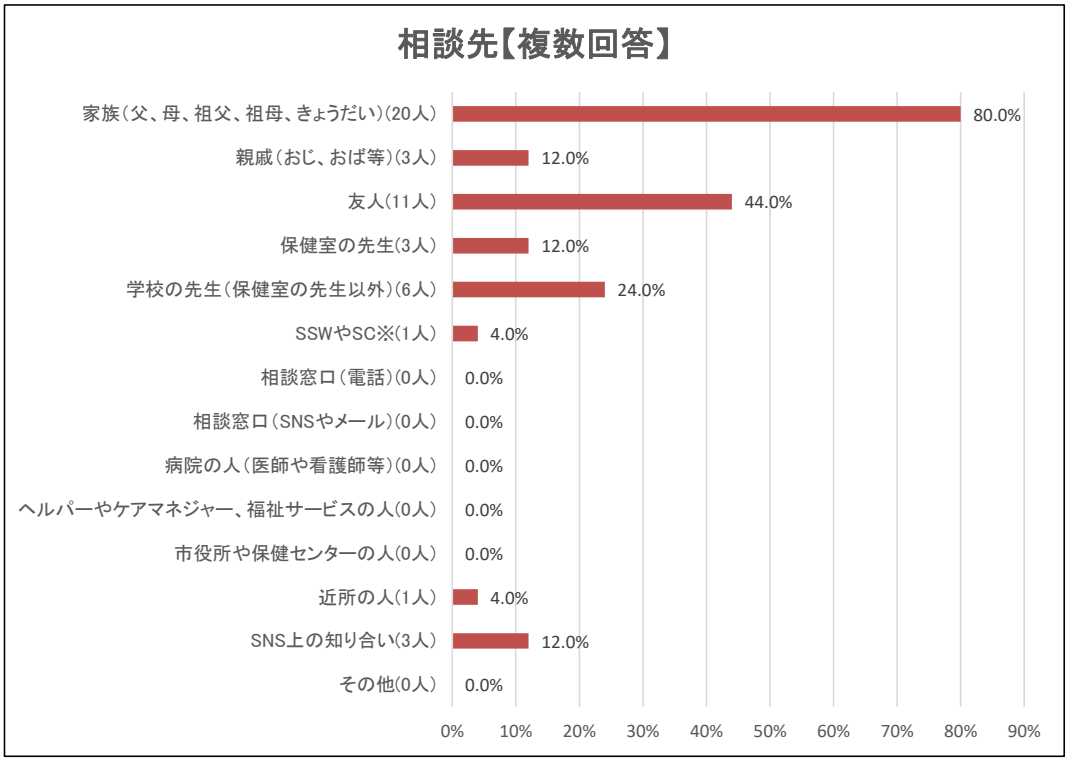
n=112人

（５）相談の状況
①相談したこと
　相談したことは、「ある」22.3%、「ない」77.7%であった。



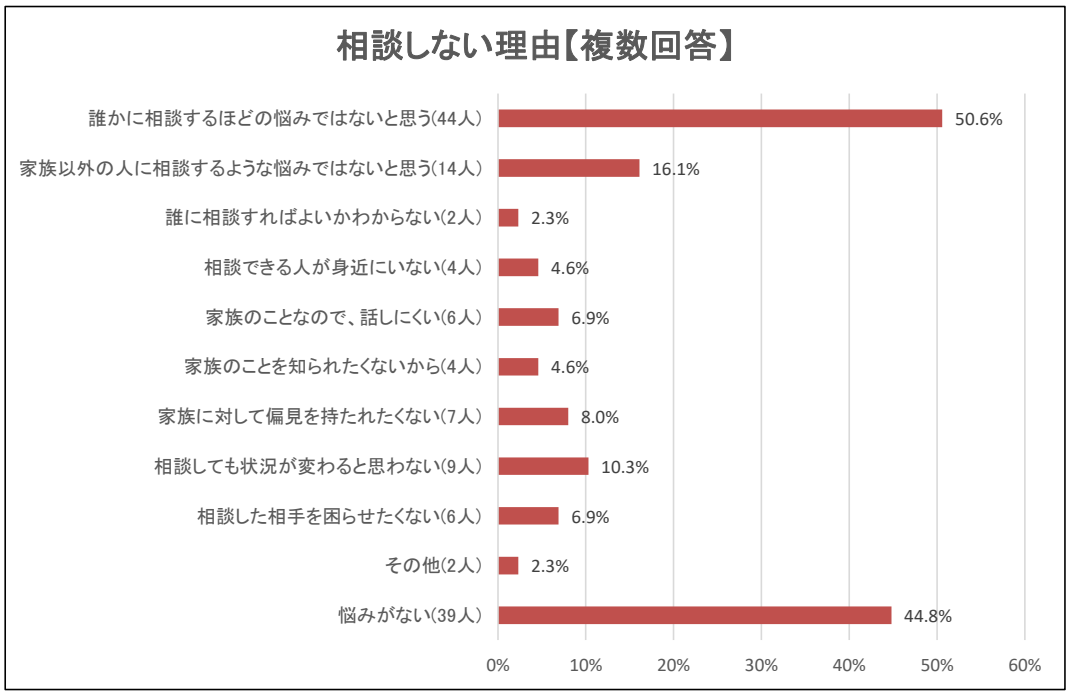
n=112人

②相談先【複数回答】
　相談したことがあると回答した25人の相談先は、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が80.0%と最も高く、次いで「友人」44.0%、「学校の先生（保健室の先生以外）」24.0%であった。



※SSWやSC…スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー　　n=25人

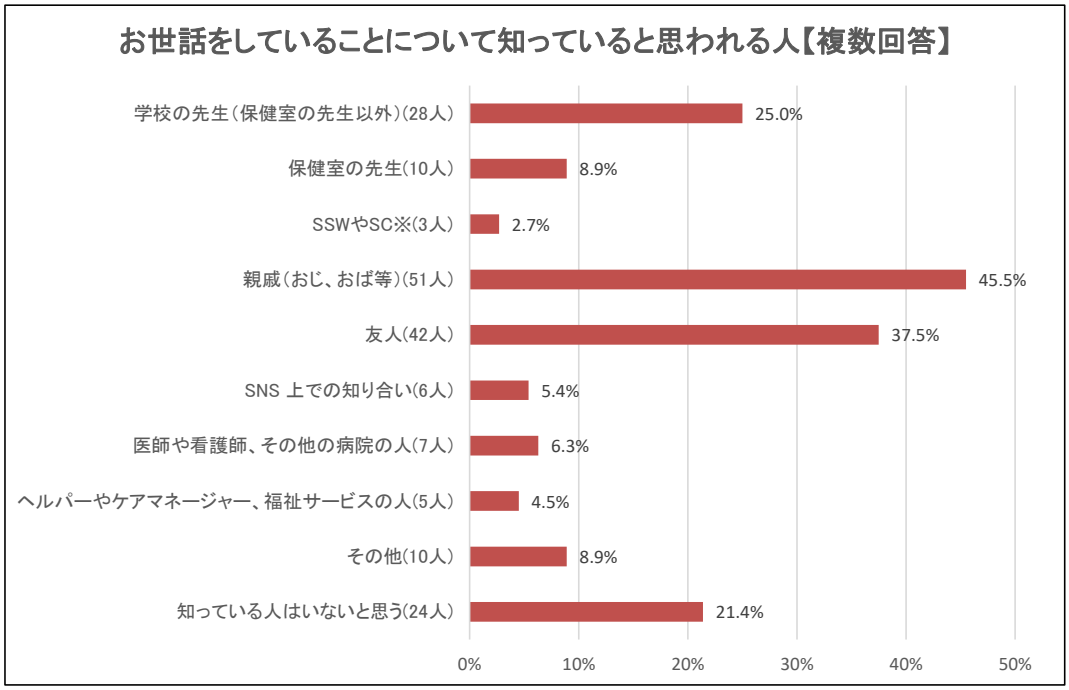
③相談しない理由【複数回答】
　相談したことがないと回答した87人の相談しない理由は、「誰かに相談するほどの悩みではないと思う」が50.6%と最も高く、次いで「悩みがない」44.8%、「家族以外の人に相談するような悩みではないと思う」16.1%であった。



n=87人

④お世話について知っていると思われる人【複数回答】

お世話をしていることについて知っていると思われる人は、「親戚（おじ、おば等）」45.5%と最も高く、次いで「友人」37.5%、「学校の先生（保健室の先生以外）」25.0%であった。

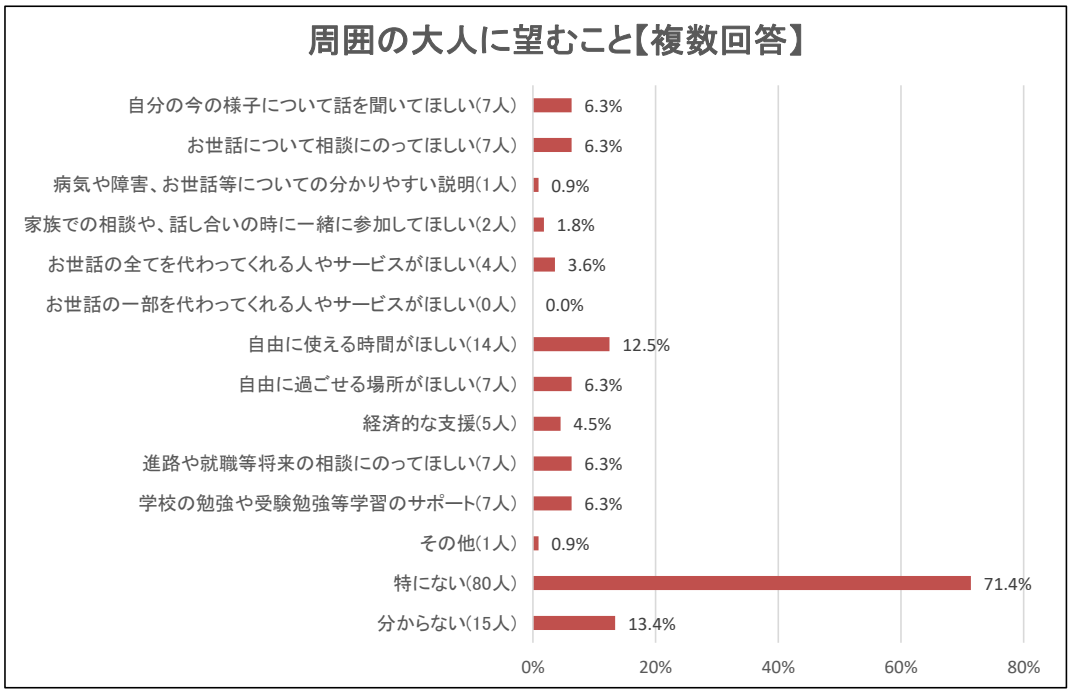


※SSWやSC…スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー

n=112人

⑤周囲の大人に望むこと【複数回答】

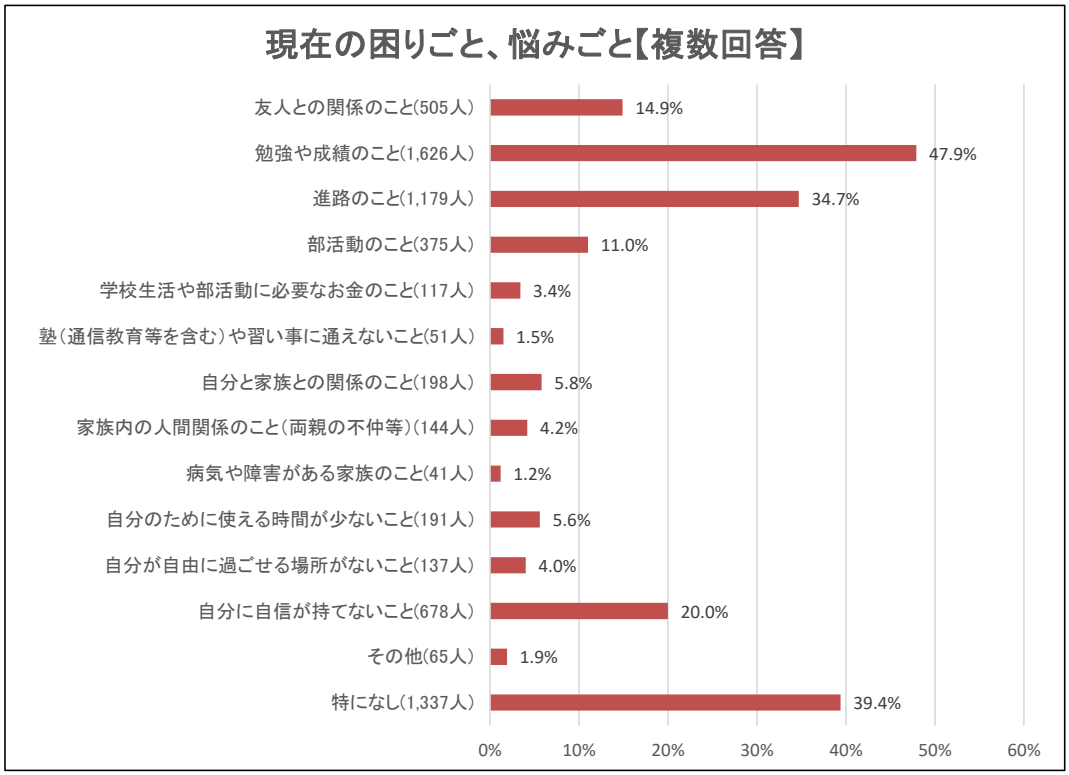
周囲の大人に望むことは、「特にない」71.4%と最も高く、次いで「分からない」13.4%、「自由に使える時間がほしい」12.5%であった。



n=112人

（６）現在の困りごと、悩みごと【複数回答】

全回答者3,397人のうち、現在の困りごと、悩みごとについて、「勉強や成績のこと」が47.9%と最も高く、次いで「特になし」39.4%、「進路のこと」34.7%であった。

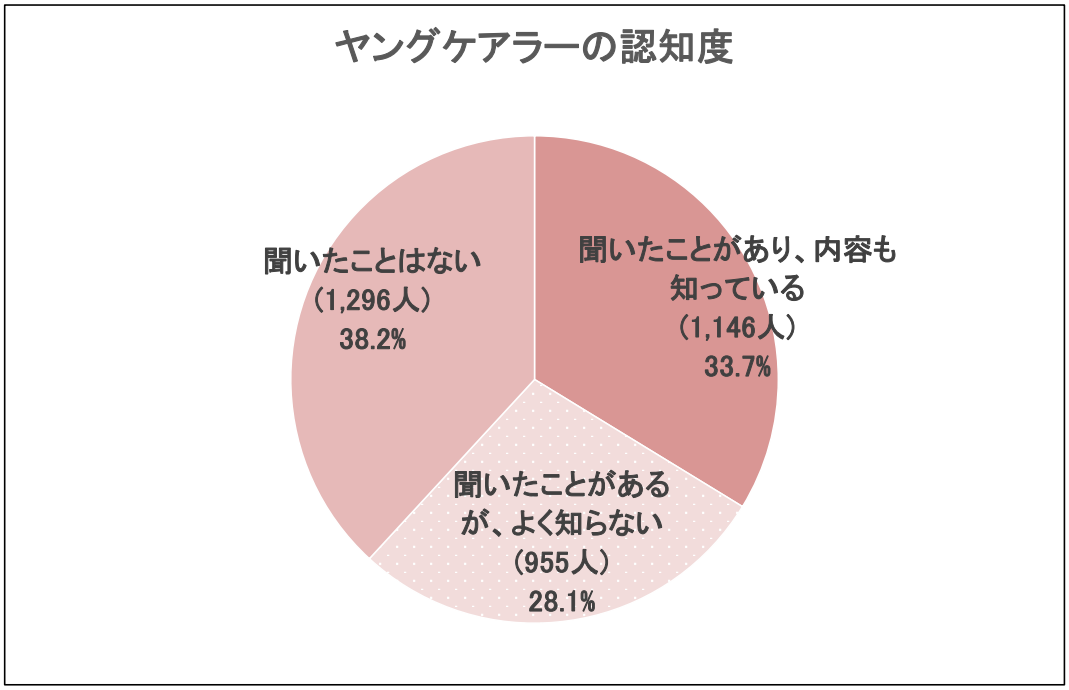


n=3,397人

（７）ヤングケアラーの認知度

①ヤングケアラーの認知度

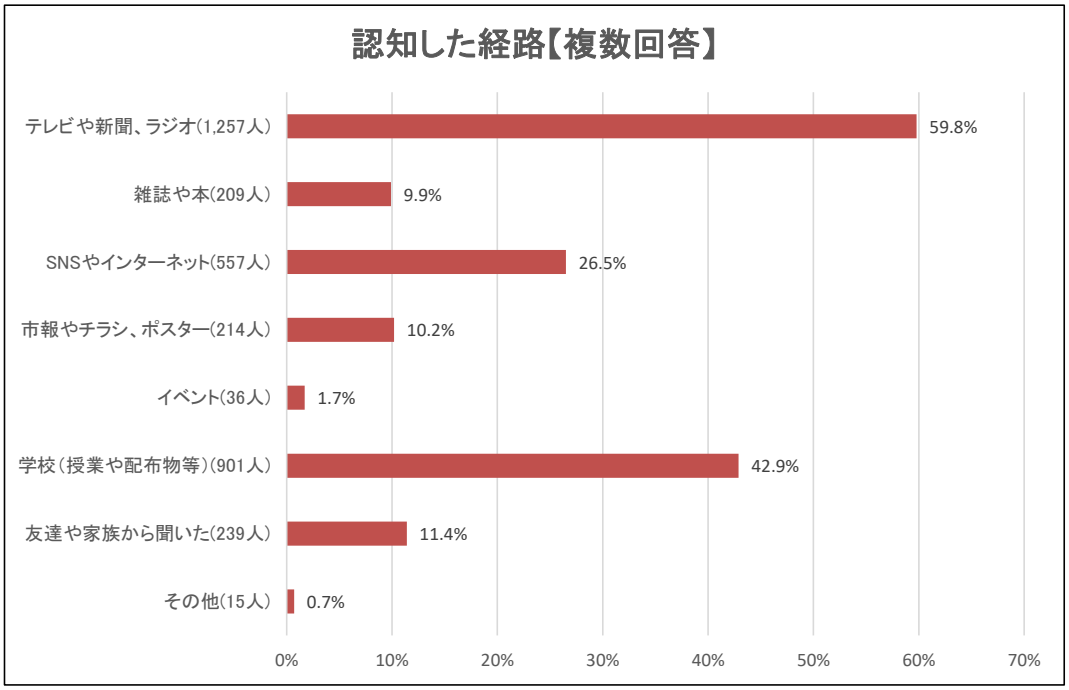
ヤングケアラーについて、「聞いたことはない」38.2%と最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容も知っている」33.7%、「聞いたことがあるが、よく知らない」28.1%であった。



n=3,397人

②認知した経路【複数回答】

ヤングケアラーについて、聞いたことがあると回答した2,101人が、ヤングケアラーを認知した経路は「テレビや新聞、ラジオ」59.8%と最も高く、次いで「学校（授業や配布物等）」42.9%、「SNSやインターネット」26.5%であった。

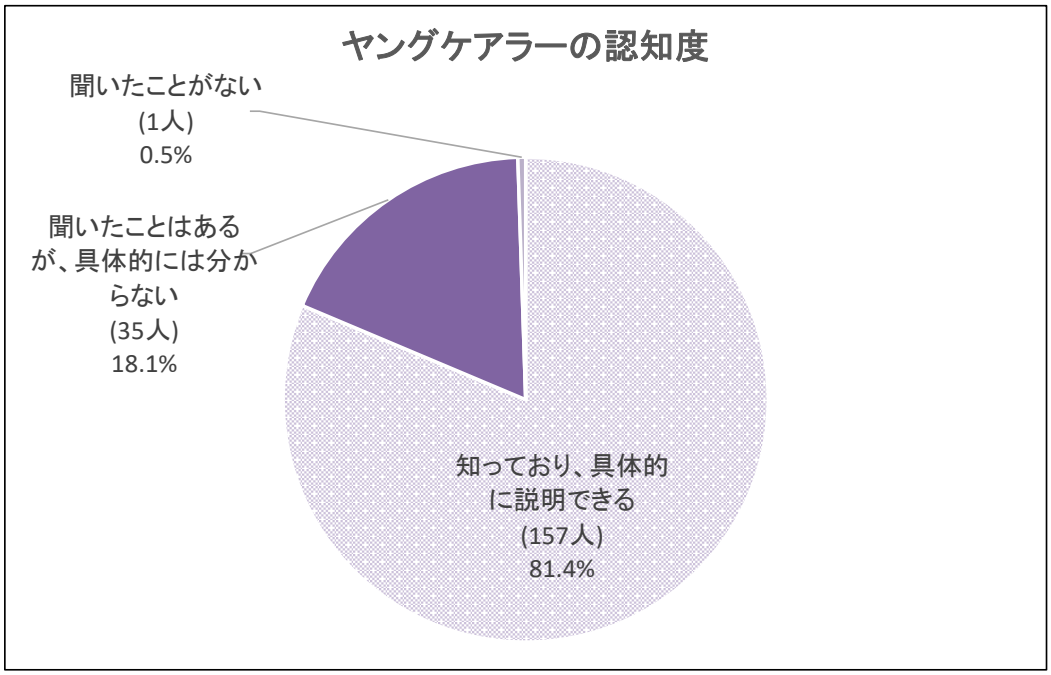


n=2,101人

4　ヤングケアラーの実態調査について
①小学校担任教諭アンケート調査結果

（１）ヤングケアラーの認知度

全回答者193人のうち、「知っており、具体的に説明できる」が81.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、具体的には分からない」18.1%、「聞いたことがない」0.5%であった。

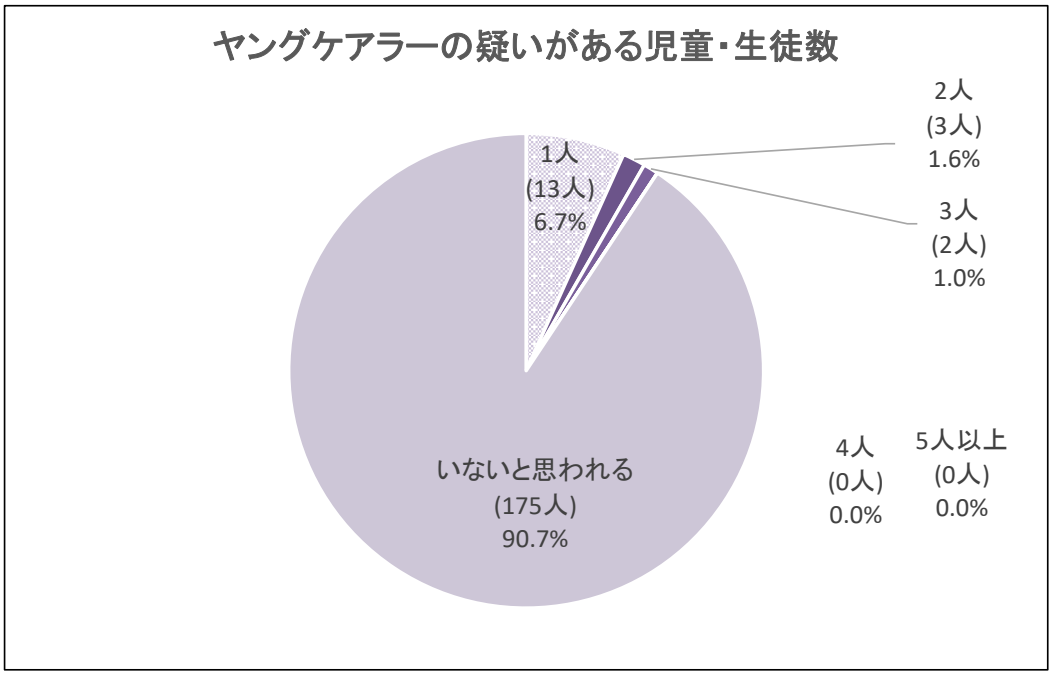


n=193人

（２）ヤングケアラーの実態

①ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒数

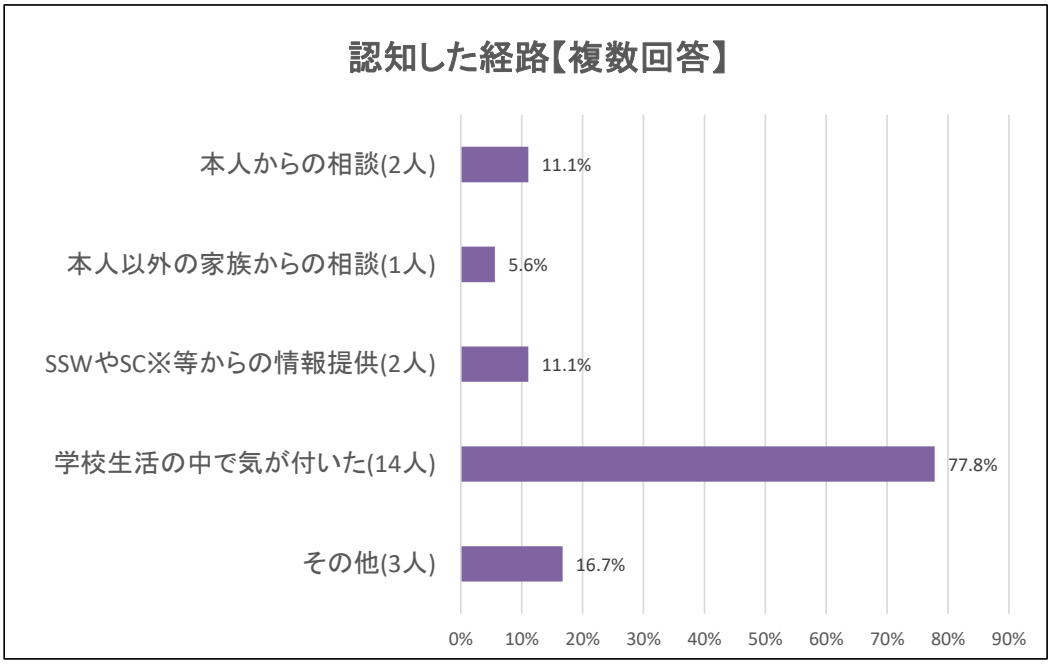
ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒数は、「いないと思われる」が90.7%と最も高く、次いで疑いがある児童・生徒数は「1人」6.7%、「2人」1.6%であった。



n=193人

②認知した経路【複数回答】

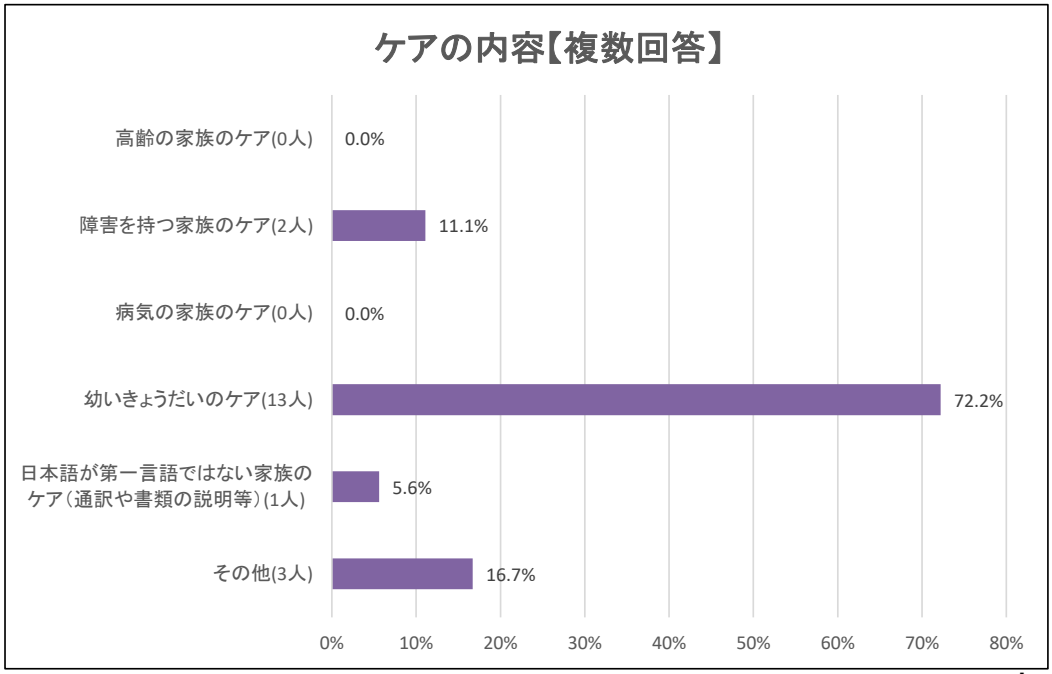
ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒数がいると回答した担任教諭18人の当該児童・生徒を認知した経路は、「学校生活の中で気が付いた」が77.8%と最も高く、次いで「その他」16.7%、「本人からの相談」及び「SSWやSC※等からの情報提供」11.1%であった。



※SSWやSC…スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー　　n=18人

③ケアの内容【複数回答】

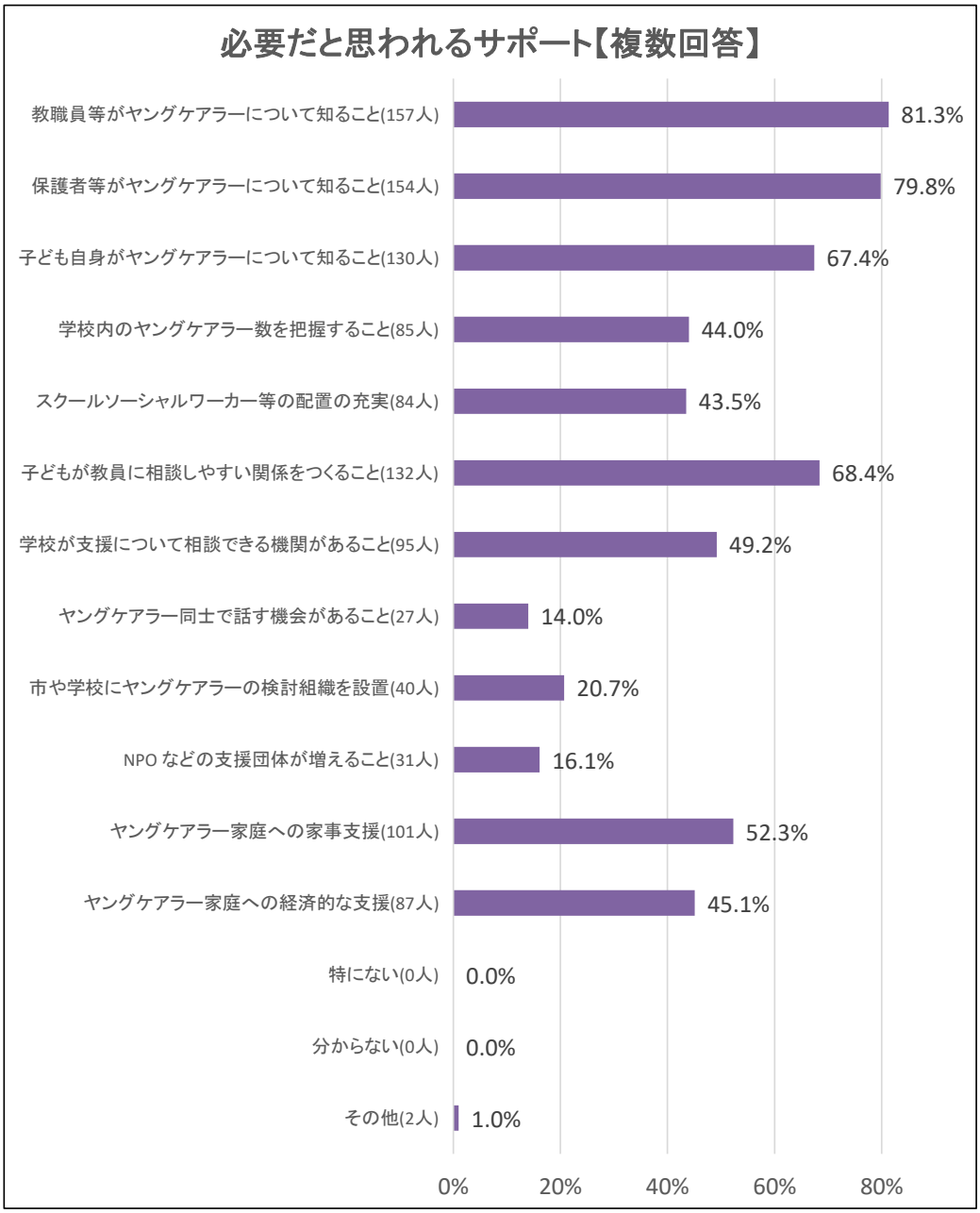
ケアの内容は、「幼いきょうだいのケア」が72.2%と最も高く、次いで「その他」16.7%、「障害を持つ家族のケア」11.1%であった。



n=18人

（3）必要だと思われるサポート【複数回答】

必要だと思われるサポートは、「教職員等がヤングケアラーについて知ること」が81.3%と最も高く、次いで「保護者等がヤングケアラーについて知ること」79.8%、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」68.4%であった。

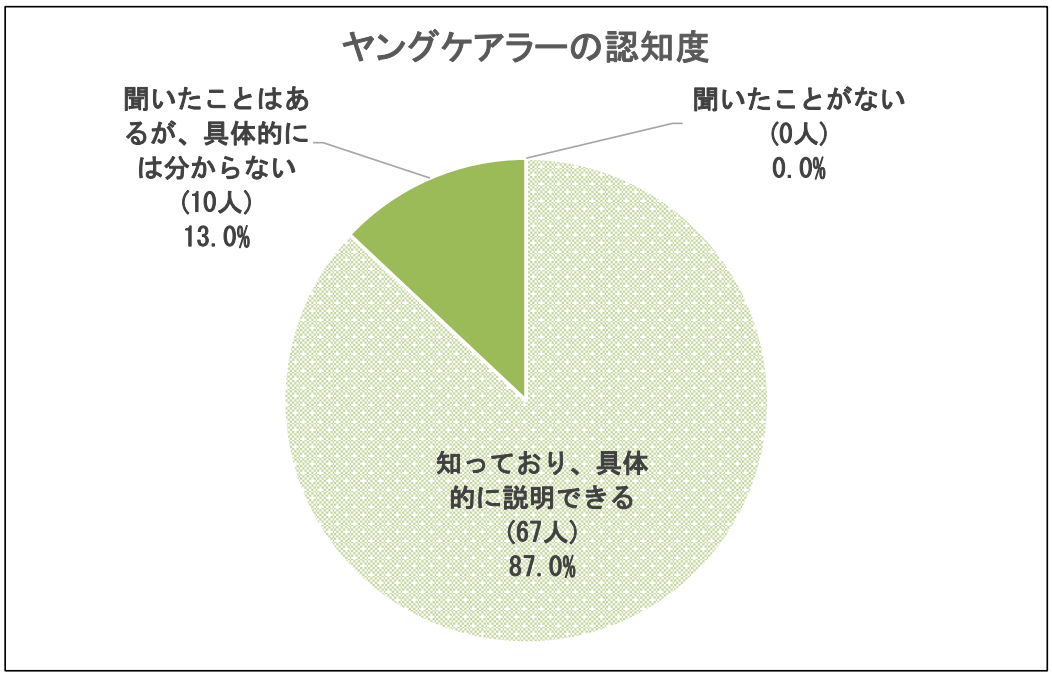


n=193人

②中学校担任教諭アンケート調査結果

（１）ヤングケアラーの認知度

全回答者77人のうち、「知っており、具体的に説明できる」が87.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、具体的には分からない」13.0%、「聞いたことがない」0.0%であった。

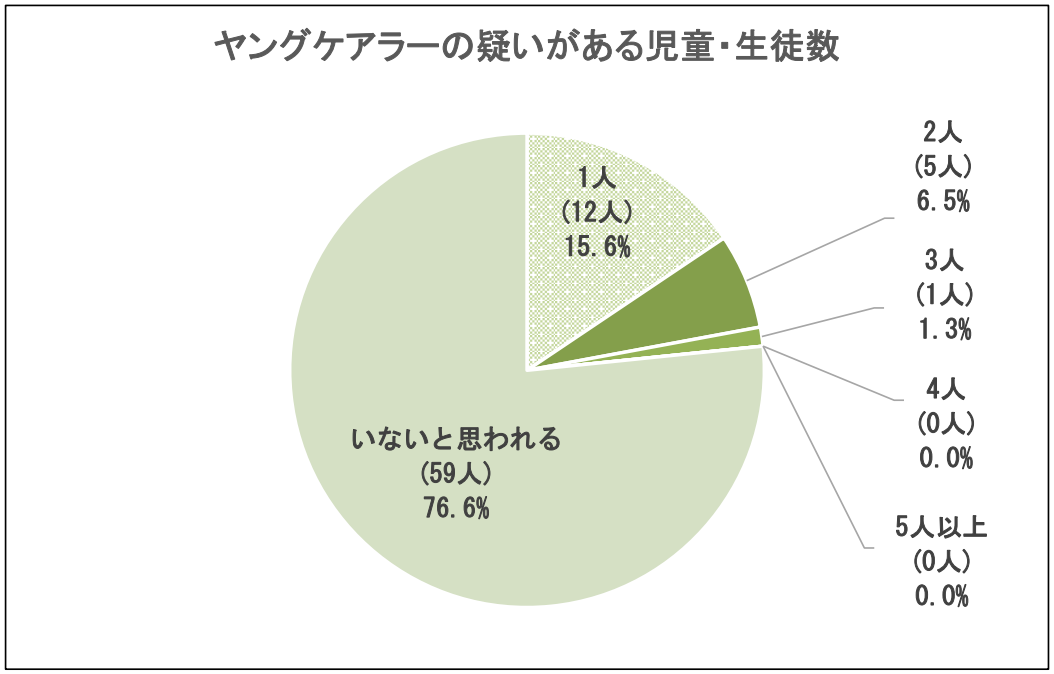


n=77人

（２）ヤングケアラーの実態

①ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒数

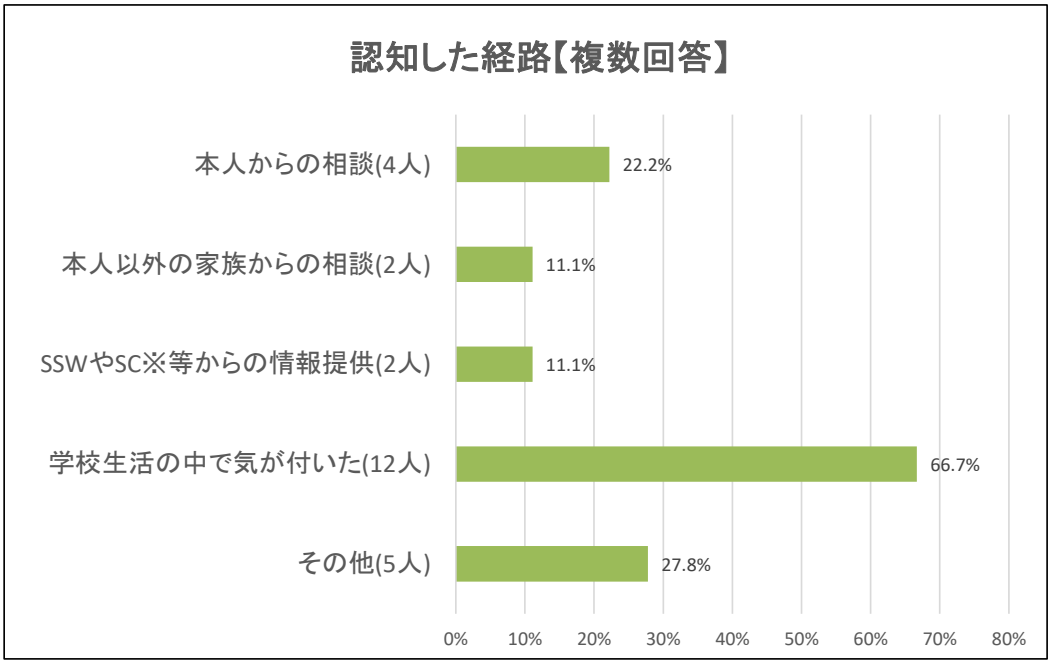
ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒数は、「いないと思われる」が76.6%と最も高く、次いで疑いがある児童・生徒数は「1人」15.6%、「2人」6.5%であった。



n=77人

②認知した経路【複数回答】

ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒数がいると回答した担任教諭18人の当該児童・生徒を認知した経路は、「学校生活の中で気が付いた」が66.7%と最も高く、次いで「その他」27.8%、「本人からの相談」22.2%であった。

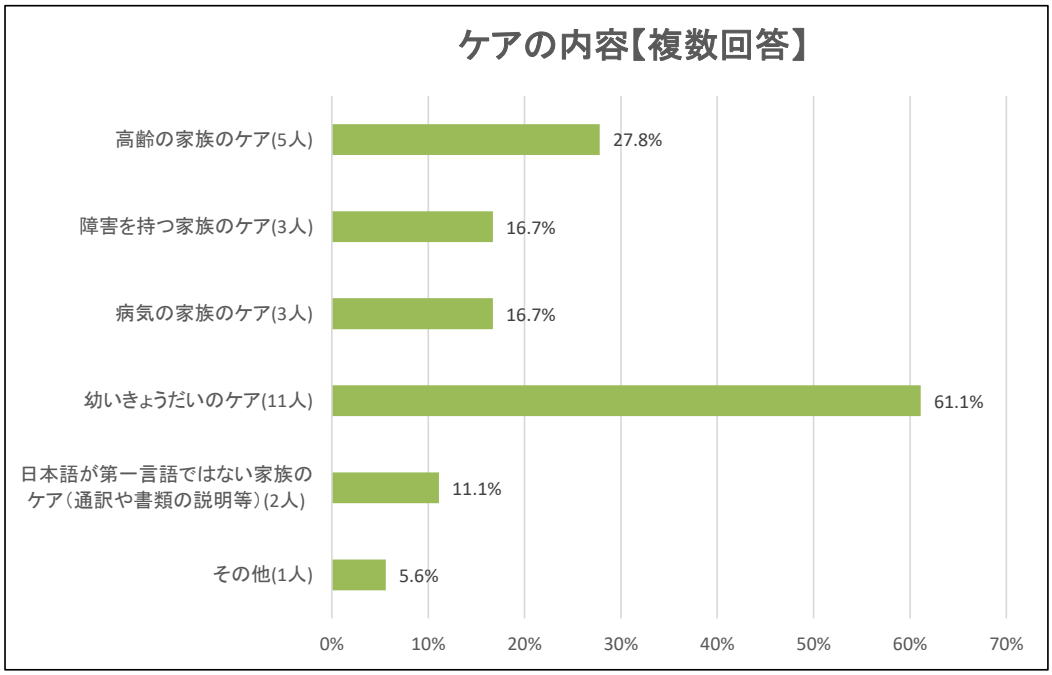


※SSWやSC…スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー

n=18人

③ケアの内容【複数回答】

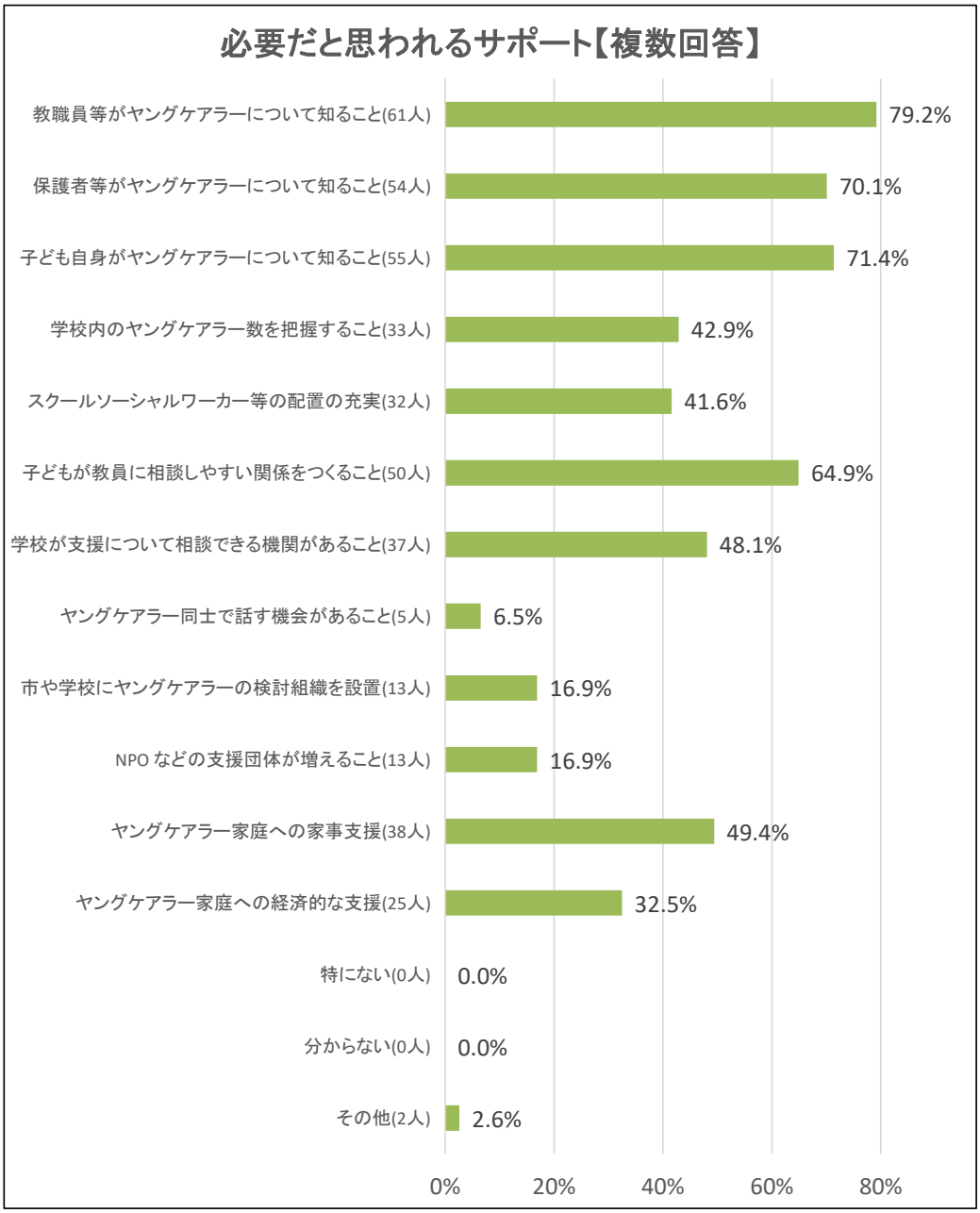
ケアの内容は、「幼いきょうだいのケア」が61.1%と最も高く、次いで「高齢の家族のケア」27.8%、「障害を持つ家族のケア」16.7%、「病気の家族のケア」16.7%であった。



n=18人

（３）必要だと思われるサポート【複数回答】

必要だと思われるサポートは、「教職員等がヤングケアラーについて知ること」が79.2%と最も高く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」71.4%、「保護者等がヤングケアラーについて知ること」70.1%であった



n=77人